慈恵大学の
「今」を伝える
法人情報誌

The JIKEI

VOL. 41
2024/Winter

私は学生時代に興味を持ったことが2つあり、一つは心房性ナトリウム利尿ペプチド（ANP）です。宮崎医科大学に在学していた当時、同大学の松尾先生・寒川先生らによって単離同定され、心臓からホルモンが出ることを知ってとても驚きました。もう一つはポリクリで受け持った冠攣縮性狭心症の患者さんです。強い血管の攣縮が生命に大事な冠動脈になぜ生じるのかとても不思議でした。ANPも冠攣縮もどちらも心臓での出来事ですので循環器には何となく興味を持ちました。卒後は偶々熊本大学に「循環器内科」が新設されたのでそこに飛び込み、「縁」とは不思議なもので、結局私は学生時代に興味を持ったこの2つのテーマを研究対象にすることになったのです。慈恵医大では、ANP研究から端を発して臓器連関研究をしています。研究対象が「心臓」から「全身」に広がったわけですが、これも「縁」だと感じています。「縁」ということでは、私が学生時代を過ごした宮崎は学祖高木兼寛の出生の地であり、そうした環境で過ごしたこと自体が私と慈恵医大とのご縁だったのかもしれません。「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神に自然と導かれていったのだと思っています。

東京慈恵会医科大学
内科学講座（循環器内科）
講座担当教授

吉村 道博
Michihiro Yoshimura

02 巻頭言

私たちが築いてきた文化・風土を社会に発信

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

巻頭特集

03

注目の栄養素 ビタミンD研究

東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝

東京慈恵会医科大学 分子疫学研究部 教授 浦島 充佳

New Organization

08 新たなる組織の紹介

総合医科学研究センター プロジェクト研究部

部長(教授) 岡野 ジェイムス洋尚
副部長(教授) 坪田 昭人
アミロイド制御研究室 室長 杉本 真也
腎臓応用再生医学研究室 室長 山中 修一郎
免疫細胞治療研究室 室長 佐藤 洋平

Ongoing

09 01 教育

医学科は2回目の医学教育分野別評価を受審しました。

医学部医学科長、教学委員長、分子生理学講座 講座担当教授 竹森 重

11 02 研究

恐怖による摂食抑制を担う神経回路基盤を解明

～ストレスと摂食行動の相互作用を制御する中枢メカニズムの解明に期待～

総合医科学研究センター 臨床医学研究所 教授 渡部 文子

13 03 診療

薬物療法に反応しない双極性障害のうつ状態に対する反復

経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)

精神医学講座 准教授 小高 文聰

Nursing

15

地域連携看護学研究センター(JANPセンター)

看護学科 小児看護学 教授 高橋 衣

Topics

16

学校法人慈恵大学 SDGsの取り組み

PDC から PDCA へ

17

大学基準協会による機関別認証評価の実施について

東京慈恵会医科大学 学長補佐
学校法人慈恵大学 内部質保証推進委員会委員長 柳澤 裕之

Topics

18

慈恵の未来を語ろう! 車座トークを開催

21 News Flash

2023年

4月 第31回日本医学会総会より「楯」を受贈
6月 地域救急医療業務への貢献
7月 第3回慈恵ーMayo Clinicジョイントシンポジウム開催
大学院における次世代がんプロフェッショナル養成プランについて
葛飾医療センターに東京都知事から感謝状が贈呈されました。
8月 宮崎市「高木兼寛顕彰事業」特別大使
宮崎市立穆佐小学校本学招待旅行
ういケアみなと 夏休み企画
加藤勝信前厚生労働大臣が附属病院(本院)を見学
東京都知事から感謝状が授与されました
9月 慈恵・宮崎・鹿児島大学合同第4回高木兼寛記念シンポジウム開催(開催地:宮崎市)
理念行動化戦略「見える化スライド」新たなデザインを投票で決定、表彰式を実施
10月 附属病院(本院)病院機能評価の結果報告
第140回成医会総会「成医会優秀ポスター発表賞」及び「成医会学生ポスター発表賞」の受賞
第三病院(仮称)新本館新築工事 起工式
11月 武見敬三厚生労働大臣、河野太郎デジタル大臣が附属病院(本院)を見学されました
御成門中学校におけるスクールトレーナー制度モデル事業の実施
2024年 主な行事予定表

Topics 歴史

30

慈恵大学と渋沢栄一

学術情報センター 課長 阿部 信一

31 Notice

▪ 大学公報(行事／公示／学事／訃報／東京慈恵会公報) ▪ 院内表彰受賞者 ▪ 補助金・助成金 ▪ プレスリリース
▪ メディア掲載一覧 ▪ 生涯学習・公開セミナー等 ▪ 寄付のお願い ▪ ガバナンス(行動憲章／行動規範)
▪ 専門医紹介動画のご紹介 ▪ 医療連携窓口のご紹介

私たちが築いてきた文化・風土を社会に発信

学校法人慈恵大学
理事長 栗原 敏

新型コロナウイルス感染症は収束に向かい、対面での教育や学術活動が復活しつつあり、大変嬉しく思います。コロナによって対面での講義、会議などが制限され、Webでの講義や会議が多くなりました。この経験を通して、対面で人と人が直接会って話すことの重要性を実感したことと思います。情報伝達の技術はこれからも発達すると思いますが、人と会うことの重要性は変わらないと思います。

本号ではビタミンDに関する研究が取り上げられています。ビタミンDは骨の成長に欠かせないビタミンとして注目されてきましたが、骨の成長以外にも、がんによる死亡リスクを低減する効果があることなどが、最近、明らかにされており、今後の研究の発展が期待されています。

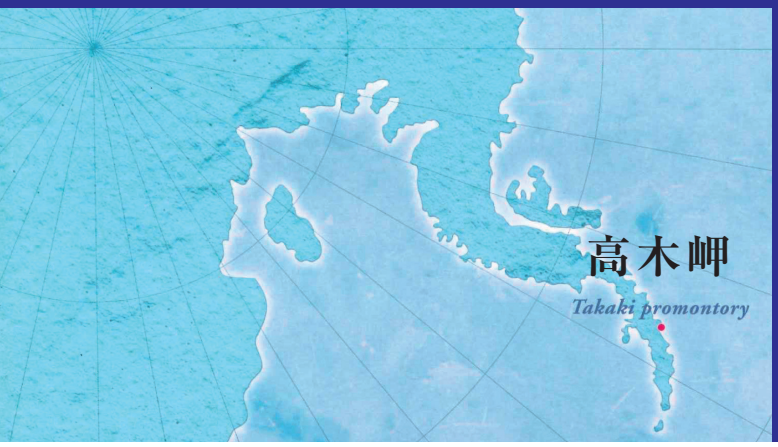
2023年は評価や検査の年でした。大学基準協会の評価、病院機能評価、会計検査院の検査が行われました。大学基準協会の評価は7年ごとに行われるもので、準備に時間と労力を費やしました。実地調査では面談が行われ、本学の学生諸君も面談しました。正式な評価は2024年になると思いますが、概ね良好という感触を得ています。現在、多くの大学がいろいろな評価を受ける時代になり、評価疲れという声も聞こえてきます。今回の評価では内部質保証が重要課題になり、大学全体で内部質保証が機能しているかが問われました。内部質保証に関しては柳澤学長補佐が熱心に取り組み、定期的に会議が開かれ準備してきました。その結果、大学全体に内部質保証の意義が浸透したと思います。

11月11日には車座トークが行われました。車座トークは、大学執行部と若手教職員、学生諸君が混ざってグループを作り、それぞれのテーマで自由な意見交換をするもので、お互いの意思疎通を図り大学が目指している方向を確認し、どのような大学になりたいかについて話し合いました。職種や世代を超えた自由な話し合いは新鮮でした。声をかけ合うことができる柔軟な組織は極めて重要だと思います。旧青戸病院の医療事故の後には、全学的にグループワークを行い、延べ約8,000名の教職員、学生（医学生、看護学生）が参加しました。大学だけでなく、各附属病院でもグループワークを実施し、お互いにものを言える組織であることが、医療事故を防止する上で、重要だということが認識されました。

最近、武見敬三・厚生労働大臣、河野太郎・デジタル大臣、盛山正仁・文部科学大臣が慈恵を訪問する機会がありました。厚労大臣とデジタル大臣は、健康保険証をマイナンバーカードに登録するシステムを推進するために来訪されました。医療現場の例として本院が対象として取り上げられ、附属病院の取り組みが報道されました。また、文科大臣は第11回日本シミュレーション医療教育学会で挨拶されるために来校されました。その折に、医療者教育が変わりつつあることをご説明しご理解を頂きました。社会に対して本学のプレゼンスを示す良い機会だったと思います。これからも本学のプレゼンスを示す努力をしていきたいと思います。私たちが築いてきた文化・風土を社会に発信し、国民の理解を得ることが大学存続の基盤だと思います。

巻頭特集

注目の栄養素 ビタミンD研究



学祖、高木兼寛は1880年代に「脚気と栄養」についての研究に取り組み、ビタミン研究の開拓者として日欧米において高い評価を受けました。南極大陸には「ビタミンの父」とも呼ばれる高木の功績を讃え、1959年に英国の南極地名委員会によって「高木岬」と命名された岬があります。2023年、本学の研究チームによってビタミンDに関する研究成果がリリースされ、テレビや新聞など、多数のメディアで紹介され、注目を集めました。今回の特集では、そのビタミンDの研究成果をご紹介いたします。

Part 1 98%の「健常人」がビタミンD不足!

～液体クロマトグラフィー・質量分析（LC-MS/MS）法を用いた国内初の基準値を報告～

東京慈恵会医科大学
臨床検査医学講座
講座担当教授
越智 小枝

はじめに

ビタミンD（VD）は生命維持に必須の多機能調節因子です。現代はVD不足が世界的に蔓延し、その頻度の高さから「VD不足パンデミック」とまで呼ばれる社会現象となっています。VD不足の蔓延が明らかとなった理由は、主に2つあります。

1つは生活スタイルの現代化に伴う、皮膚におけるVD合成の低下です。人類が発祥地であるアフリカから日照時間の短い北上するに従い、日光暴露量の激減が起きました。さらに産業革命後の大気汚染の悪化、皮膚がん防止のための日焼け止め使用の推奨により、現代人の日光暴露量は非常に低下しています。

2つ目は検査の発展です。欧米では、1920年代に合成VDが開発され、くる病や骨軟化症は激減しました。それにもかかわらずVD不足が問題となったのは、血清中のVDが測定可能になったためです。臨床検査を用いた疫学調査により、無症状のVD不足と種々の疾患の関連が次々と判明しました。これまでにVDの欠乏は骨粗鬆症・サルコペニア・心血管疾患・自己免疫疾患・糖尿病・うつ病・不妊などの疾患リスクを上昇させ、また後述のようにがんの予後にも関わることが分かっています。

疾患リスクを上げる血清25（OH）濃度の閾値はおよそ20～30ng/mLですが、この値では多くの方々は無症状です。つまり現代のVD不足は検査なくしては発見できないということです。

LC-MS/MS法を用いた血清25ヒドロキシビタミンD［25（OH）D］測定

現在VD充足度マーカーとして最もよく用いられるのは血清25（OH）D濃度です。VDの代謝過程で生じる50あまりの代謝産物の中で、血中に比較的豊富に存在し、かつ血中半減期が比較的長く（12日～20日）、安定した測定値を得やすいことが、血清25（OH）Dが測定される主な理由です。

しかし25（OH）D測定の精度は必ずしも高いとは言えません。これは従来法のEnzyme-Linked Immuno-Sorbent Assay（ELISA）法の質が十分担保できず、また、ELISA法そのものが血清のコレステロール、ビリルビンなどの影響を受けやすいためです。欧米では国を挙げて標準物質の作成、標準プロトコルなどに取り組んでいますが、最近でも

図1. LC-MS/MS装置と25(OH)D測定結果

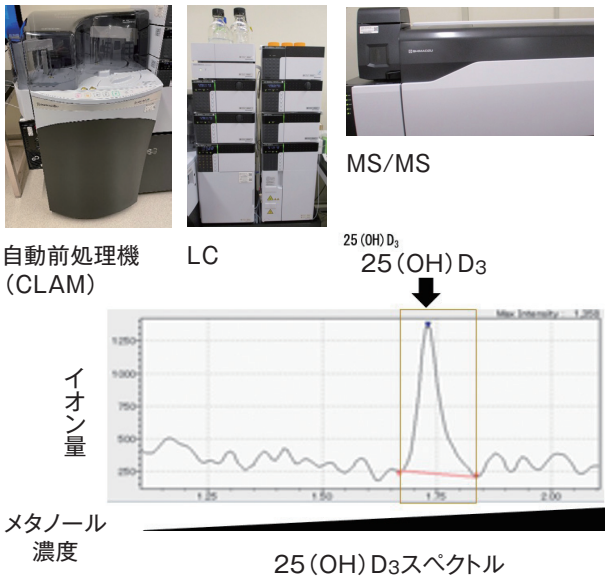
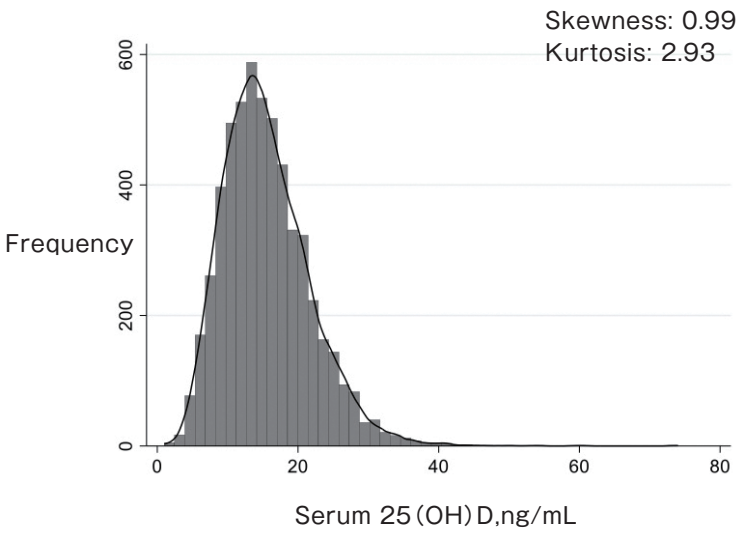


図2. 健常人の血清25(OH)D濃度分布



Miyamoto H, et al. J Nutr 2023;153:1253

%CV<5%の精度を満たすものは3分の2程度です(Wise SA,et al. J Steroid Biochem Mol Biol. 2021; 212: 105917)。

このようなELISA法の代わりに近年ゴールドスタンダードとなりつつある検査手法が、精密度・正確度の高いLC-MS/MS法です。LC-MS/MS法は理論上機器間の測定誤差が少なく、施設間誤差も少ないことが特徴です。しかし一方で、LC-MS/MS測定を標準化・自動化するためには測定物質ごとに除タンパクなどのサンプルの前処理条件を設定する必要があります。この前処理の煩雑さが代謝産物や関連物質を網羅的に解析する際の障壁となり得ます。

島津製作所では血清25(OH)D濃度測定の前処理を自動化したLC-MS/MS機器を開発し(図1)、その臨床導出を準備中です。

血清25(OH)D濃度の疫学調査

私たちはこの島津製作所との共同研究により、主に都内に在住する日本人のVD不足の状況を把握すべく、健診受診者のデータを用いた疫学調査を行いました(Miyamoto H, et al.J Nutr 2023;153:1253)。

本学新橋健診センターの協力をいただき、2019年4月から2020年3月までに同センターを受診された健常人5,518名の残血清を用い、上述の全自動化前処理装置(CLAM-2030)とLC-MS/MS装置(LCMS-8050)にて血清25(OH)D測定を行いました。

その結果、1,092名(19.8%)がVD不足(20～30 ng/mL)、4,334名(78.5%)がVD欠乏(<20 ng/mL)、つまり98%がVD不足状態にあると判明しました(図2)。95%の健常者が含まれる「基準値」を計算したところ6～30ng/mLであり、基準値が既にVD不足の閾値以下にあるという衝撃的な結果となりました。

無症候VD欠乏者への介入の課題

今回発見されたVD欠乏の方は全員無症状です。つまり骨折など不可逆な病態が生じるまでは、実臨床でのVD投与介入が困難な状態にあります。またVD欠乏には種々の交絡因子があり、上述の種々の疾患が本当にVDによって引き起こされたかどうかの判定も困難です。今後、VD不足関連の重大疾患発症を予測する生体マーカーの確立も求められます。

マーカー発見の為には網羅的な解析は必須です。生体内には多くの微量なVDの代謝物質・VD関連分子が存在します。さらにVDは転写因子を活性化するため、miRNA解析も有効である可能性があります。今回のLC-MS/MS機器だけでなく、種々のプロテオミクス・ゲノミクス・メタボロミクスなどのマルチオミクス検査を駆使した解析研究が重要だと考えます。

またVD欠乏を同定しても、介入への反応性には個体差があり、「one size fits all」の介入では不十分です。今後はVD充足度の繰り返し測定や、遺伝的背景を含む患者情報・生活背景情報・臨床検査情報を収集して個別介入をデザインする「精密栄養学」も必要と考えられます。

おわりに

分子機構の解明に比べ、VD欠乏の疫学調査・介入研究はまだ黎明期にあります。今後は患者の検体・情報を利活用できる臨床検査医学、検査機器開発のための工学的技術・マルチオミクスデータ解析・疫学調査のための情報学の知見を動員した横断的研究が行えればと考えています。

Part 2

ビタミンDサプリで p53陽性がん患者さんの 再発死亡リスクが73%減少

ビタミンDサプリ内服が
p53陽性がん患者さんの再発･死亡を抑えるか否か？
この「問」に「解」を示すのは
高木先生の遺志を継ぐ我ら慈恵チームであるべきだ。

東京慈恵会医科大学
分子疫学研究部 教授
浦島 充佳

私たちの研究は癌治療の ゲームチェンジャーとなり得るか？

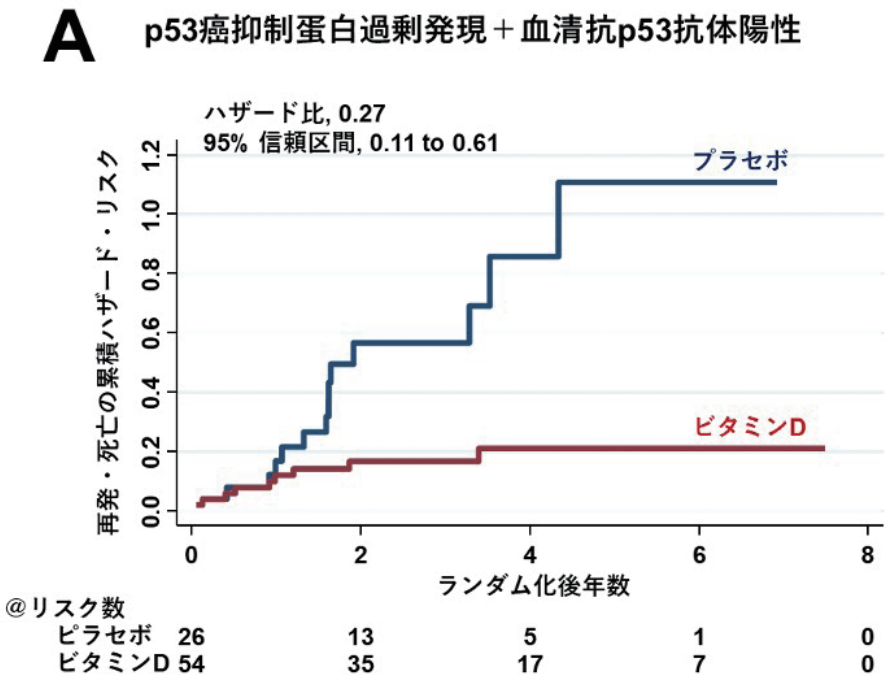
私たち慈恵分子疫学の研究チームは、病理組織の免疫染色でp53癌抑制蛋白を過剰発現し、かつ血清抗p53抗体を検知できるp53陽性消化管がん患者さんのサブグループに限ると、ビタミンDサプリ内服が再発･死亡リスクをプラセボ群と比較して73%も減少させることを明らかにした（図A）。一方、上記サブグループ以外では全く効いていなかった（図B）。傷ついた遺伝子を修復するp53の遺伝子は癌の4～5割で変異しており、その頻度は最多だ。かつこの癌抑制遺伝子にアミノ酸置換を伴うミスセンス変異があるとその蛋白が過剰発現し、癌促進蛋白として新たな機能を発揮する。そのため再発･死亡のリスクも各段に上がる。よって、p53を制することができれば予後不良な癌を制することができるといっても過言ではない。実際、私たちはビタミンDサプリメント内服でこの予後不良なp53陽性がん患者さんの再発･死亡を大幅に抑え得ることを示した。

結果はJAMA（アメリカ医師会誌）の姉妹誌に掲載された。この研究成果に対して世界ではじめて25OHD血中濃度の測定に成功したミッシェルFホリック教授（ボストン大学医学校）が「私たちの研究結果が癌治療のゲームチェンジャーとなり得る」と高く評価してくれた。2007年、ホリック教授は医学最高峰雑誌 -N Engl J Medに総説を載せ、多数の疫学エビデンスを挙げて「ビタミンDサプリが癌に効くかもしれない」ことを示唆した。この論文を読んだことがきっかけで私は癌とビタミンDの研究をはじめたのである。その著者から16年の時を経てエールの言葉をいただき心底嬉しかった。

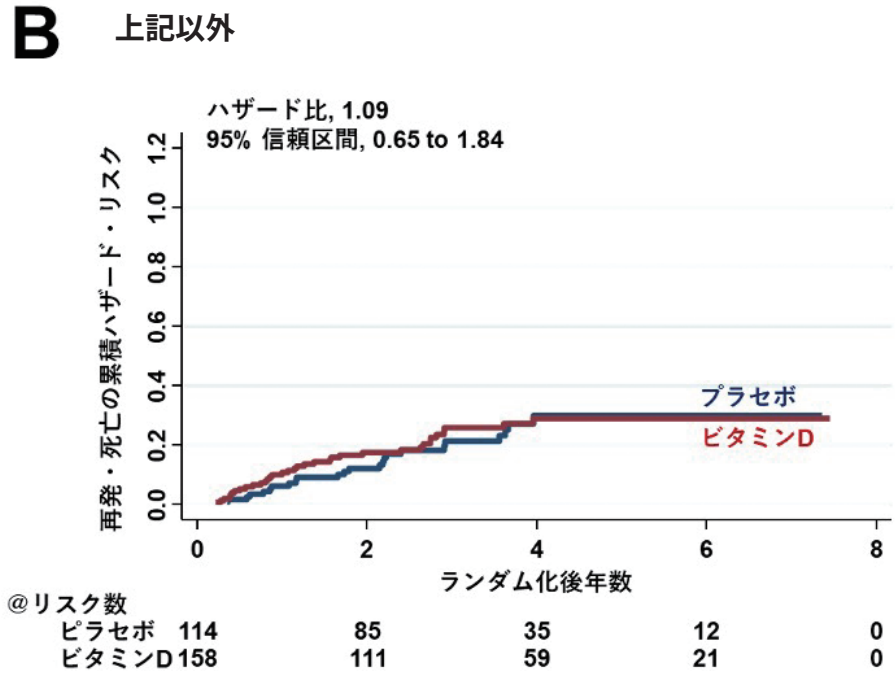
アマテラス試験： ハーバード大学と肩を並べた瞬間

上記研究はアマテラス試験の事後解析である。ビタミンDは日光にあたることにより皮下でつくられ、日本で実施される試験であることから、太陽神である天照大神にあやかりアマテラス試験と名付けた。2010年から8年間、食道から直腸に至る消化管癌患者さん417人をビタミンDサプリ群とプラセボ群にランダム割付し、再発･死亡リスクを比較した。その結果、ビタミンD群の5年無再発生存率は77%、プラセボ群の69%と比べて8%高く、また再発･死亡のハザード･リスクはビタミンD群で24%低かった。サブグループ解析では、有意差を検知できたものの、残念ながら、全体では統計学的に有意な差とはならなかった。

下図　ビタミンDサプリメント対プラセボの累積ハザード曲線：横軸は年数で縦軸は再発･死亡のリスク。
再発あるいは死亡例がでるごとにリスクは階段をのぼるように上がる。
従って、早く階段状のラインが上昇する方が再発･死亡率が高く予後が悪いことを示している。



図A　p53癌抑制蛋白過剰発現かつ血清抗p53抗体陽性のサブグループにおけるビタミンDとプラセボの累積ハザード曲線の比較：元来p53蛋白抗体陽性がん患者さん（＝プラセボ群）の再発･死亡率は極めて高いが、ビタミンDサプリメントを内服することで、再発･死亡率を低く抑えることができる。



図B　上記サブグループ以外におけるビタミンDとプラセボの累積ハザード曲線の比較：元来p53蛋白抗体陰性がん患者さん（＝プラセボ群）の再発･死亡率は低く、ビタミンDサプリメントはそれ以上予後を改善することはできない。

Part 2

ビタミンDサプリでp53陽性がん患者さんの再発死亡リスクが73%減少

この結果は2019年2年、JAMAに発表された。驚いたことに、私が最初に留学したハーバード大学ダナ・ファーバー癌研究所のサンシャイン試験と同時発表だった。それにしても地球の裏側で似たことを考えて試験を同時並行で進めていたとは驚きだ。

2019年1月、ハーバード大の研究チームは2万5千人以上を対象にビタミンDサプリ群とプラセボ群にランダムに振り分けるバイタル試験の結果をN Engl J Medに公表した。ビタミンDは癌の発症を予防しなかったが、2年以上内服した中で比較すると癌死亡を25%も減らしていた。著者の1人にエドワード・ジョバヌッチ教授（ハーバード公衆衛生大学院）の御名前があった。例年、大学院生や医学生数名を連れボストンを訪れることにしている。ハーバード医学部巡礼の旅だ。若手に最先端の医療を感じてもらいたいからである。2019年夏のある日、同院カフェテリアで学生たちと打合せをしていた。その刹那、歳は60代、中肉中背で丸眼鏡をかけた教授が歩いているではないか。私は反射的に席を立った。「ジョバヌッチ教授、20年前、私はここハーバード公衆衛生大学院の学生で、先生から癌疫学研究の手法を習いました。お蔭様でビタミンDと癌の関係を示す論文をJAMAに発表することができました。お礼が言いたくて、声をかけさせていただきました」。私は名刺を渡しながら追加解析の結果についてもコメントをいただくべく、午後のアポイントを取り付けた。

夏休み中の大学構内はとても静かだ。教授室の窓からは真っ青な空を背景に赤レンガの街並みが遠くに見えていた。そんな中、たっぷり1時間、教授と一対一で討論できた。メールは便利だが、心の機微に触れることはできない。私がp53とビタミンDの関係をPCでプレゼンをすると、その図を食い入るように凝視し、重要なデータを指でなぞりながら「すばらしい」と一言。2010年、ビタミンDサプリがインフルエンザ予防に有効という論文を発表したときから教授は私の研究をウォッチしていたという。そして最後に教授は私に笑顔で質問した。

「What's next?」

その瞬間、私の頭にはp53とビタミンDサプリを掛け合わせるアマテラス試験の第2弾の構想が浮かんだ。

ビタミンDサプリは癌死の12%を予防する

2020年3月、ドイツ癌センターのベン・シェツカー博士からeメールで国際共同研究の誘いを受けた。新型コロナのパンデミックが始まった頃のことである。ステイホームしながらも研究のペースは緩めない、そのマインドが素晴らしい。苦節3年、アマテラス試験を含む二重盲検ランダム化プラセボ比較試験に参加した10万人のデータをメタ解析し、ビタミンDサプリの連日内服により癌種を問わず死亡率が12%減ることを明らかにした。2020年、世界では新たに1,930万人の癌患者が発生し、約1,000万人が癌で死亡している。単純計算ではあるが癌の患者さん全員がビタミンDサプリを内服すれば毎年120万人の命を救うことができる。逆に、どんな名医でもこれだけ多くの命を救うことはできない。疫学研究の素晴らしい点だ。

終止符を打つため、アマテラス2-二重盲検ランダム化プラセボ比較臨床試験を2022年1月より始動

今回は癌死亡数が多い肺、大腸、肝臓、胃、乳、食道、膵臓、頭頸部の癌患者さんを対象とした。中でも再発率の高いp53陽性がん患者さんにターゲットを絞りビタミンDサプリが遅発性の再発・死亡を抑制するか検証する。

脚気はビタミンB1欠乏により発生し、死亡することも多々あった明治時代の国民病である。学祖高木兼寛はビタミンの存在が明らかになる前に軍艦を使った臨床試験で白米を麦飯に変えることで脚気が激減することを見出し、これを撲滅することで大勢の命を救った。

ビタミンDサプリ内服がp53陽性がん患者さんの再発・死亡を抑えるか否か?

故に、この「問」に「解」を示すのは高木先生の遺志を継ぐ我ら慈恵チームであるべきだ。

新たなる組織の紹介

総合医科学研究センター プロジェクト研究部

部長（教授） 岡野 ジェイムス洋尚
副部長（教授） 坪田 昭人
アミロイド制御研究室 室長 杉本 真也
腎臓応用再生医学研究室 室長 山中 修一郎
免疫細胞治療研究室 室長 佐藤 洋平

独自性の高い研究を世界へ！

―新たな試みに挑戦する研究ユニット集団―

プロジェクト研究部は、研究の多様性を確保するとともに、独自性の高い研究を行う有望な若手研究者の独立・スタートアップを支援し、次世代を担う研究者の育成を目的として総合医科学研究センター内に設置されました。令和5年度からは3名の室長が各自の独立した研究グループを率いて研究を開始しています。

写真中央が岡野部長、左から菊地研究技術員、山中室長、杉本室長、坪田副部長、佐藤室長

アミロイド制御研究室

アルツハイマー病などの神経変性疾患は確立された治療法がなく、高齢化に伴い患者数が増加しています。また、細菌がカテーテルなどの医療器具に付着してバイオフィルムと呼ばれる集合体をつくると、その内部の細菌は薬剤や生体の防御機構に抵抗性を示します。一見、関連がないと思われる神経変性疾患とバイオフィルムですが、実は「アミロイド」と呼ばれる共通の線維状タンパク質凝集体が関与します。個体内へのアミロイド蓄積は致命的であり、生物にはそれを回避する仕組みが備えられているはずです。その基本的かつ重要な仕組みを分子・細胞・個体レベルで解き明かすことを目標とし、疾患に対する予防法・治療法・診断法の開発につなげたいと考えています。

腎臓応用再生医学研究室

慢性腎臓病（CKD）は日本成人8人に1人が罹患しており、透析が必要な患者数は世界的に増えています。移植腎の不足を背景に、ブタを利用した異種移植などの新たな移植用臓器の開発が注目されています。当研究室では、ヒトiPS細胞と動物の胎仔腎臓を利用した臓器再生研究を中心に、ヒト腎臓細胞を動物体内で再現した薬剤性腎障害モデル開発や、新型アポトーシス誘導動物モデルを用いた老化細胞除去によるCKD進行抑制研究に取り組んでいます。腎臓内科医の視点より、CKDの予防・進行抑制から腎代替療法の開発までの包括的な研究と研究成果の社会貢献を目指し、プロジェクト研究部において切磋琢磨しながら創発的な研究の推進を考えています。

免疫細胞治療研究室

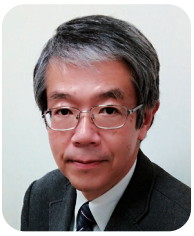
CAR-T細胞やチェックポイント阻害薬などに代表されるような、生体内での免疫反応を治療に利用する試みが進んでいます。また、ゲノム編集やPrime editingのようにヒトゲノムを編集する手法、および免疫細胞や免疫反応を制御する手法の開発も進んでいます。さらには、1細胞での塩基配列や遺伝子発現の変化を見出す手法も次々に報告されています。われわれの研究グループでは、最先端の細胞解析法とゲノム編集法を組み合わせて、ヒト免疫細胞や造血幹細胞を用いた臨床応用につながる研究を進めています。既存の常識にとらわれず、ユニークな発想や科学的な好奇心を大切にしながら、新たな治療法を開発していきたいと思っています。

以上の研究グループは独立性を保ちつつ、講座・部署の垣根を越えた横断的交流も積極的に展開しています。ご興味やご意見、あるいはプロジェクト研究部への参加ご希望がございましたら、お気軽にご連絡ください。

Ongoing

01 教育

医学部医学科長、教学委員長
分子生理学講座 講座担当教授
竹森 重



医学科は2回目の医学教育分野別評価を受審しました。

はじめに

本学医学科は二つの評価をそれぞれ7年ごとに受けます。一つは大学の認証評価と一体になった機関別評価。もう一つは、世界医学教育連盟（World Federation for Medical Education; WFME）の評価基準に沿って、WFMEの認証を受けた日本医学教育評価機構（Japan Accreditation Council for Medical Education; JACME）が行う、医学教育に特化した分野別評価です。分野別評価について、本学医学科は2023年9月に国際基準に照らして適合の評価を受けました。

経緯

分野別評価受審は今回が2回目でした。1回目を受審した2014年度当時、JACMEは立ち上がったばかりで評価基準日本版は難解でした。その後2017年にJACMEはWFMEに認証され、本学医学科は再評価を経て2018年3月26日付で2022年3月31日までの国際基準適合の認定を受けました。

2020年度に2回目の受審準備を始めたところに新型コロナウイルスが襲い、JACMEが2024年3月31日まで適合認定期間を延長し、2年遅れでの分野別評価受審となりました。

準備

受審に向けた自己点検評価書の作成は大変でした。医学科の教学を統括する教学委員会では、評価領域別に分担を決め、素案を執筆することにしました。1回目の受審時に比べるとJACMEの評価基準日本版は読みやすく、理解しやすくなっていました。しかし担当委員の筆は進みません。書いては見ても、分野別評価に明るい委員の眼から見ると的外れ。もう間に合わない!と教育センターの中村真理子センター長が数週間を投じて全体の素案を書き上げました。素案を各領域の担当教学委員らが急ぎ加筆・修正しました。教学委員の頭の中に評価基準の文面がようやく意味を持って染み込み始め、自己点検評価報告書を間に合わせて完成させることができました。

評価書の根拠資料集も作らねばなりません。評価書の原稿執筆を追いかけて教育センター事務の井草誠彦さんと安達ゆうこさんが奮闘し、ずしりと膨大な資料集をまとめ上げました。「良い思い出になりました。」と安達さん。大変な労苦の日々が偲ばれ、じんときました。

実地調査前夜

実地調査まで1か月少しの2022年10月、自己点検

評価書への質問と追加資料要求がJACMEから届きました。質問への回答案を領域担当教学委員が作り、中村教育センター長が監修・修正して松藤千弥学長の確認を受けました。「いよいよ」の空気が教学委員会に漂い、JACMEの評価基準の文面は教学委員の頭のなかにとうとう沁みつきだしていました。

実地調査の20日前、本学医学科の取り組みをアピールする領域担当教学委員の予行演習発表会を行い、「1時間でわかる医学教育分野別評価」として一般教職員にも聞いてもらいました。

2022年11月29日からの実地調査に本学を訪れた6人の評価委員は、様々な教員や学生との面談をはさみながら、教学委員等の医学科教職員と熱いやり取りを交わしました。学事課総出の協力のもと、あっという間の4日間でした。

結果と課題

JACMEでの検討等を経て2023年9月15日付で適合判定を受けました。36項目中、基本的水準で部分的適合8項目、質的向上のための水準で部分的適合5項目、評価なし1項目、残りは適合です。詳細はJACMEのホームページにあります。

評価での指摘の多くは、本学医学科が認識しながら対応できていなかった点です。学生個々の6年間の学びの足跡を詳細な記録に残せていないことと、卒業時の目標への里程標が評価を意識していないこと、が大きなものです。これらへの対応は新医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応としても必要です。時代の要請もにらみながら、必要な変革を慎重に、時に大胆に進めていく必要があります。

今回の分野別評価の適合認定期間は2023年10月1日から2030年9月30日まで。次の3回目の評価を2029年度に受審するようJACMEから通知されています。6年後の受審を見据え、教学委員会では6年後も現役の教員を多く委員に登用して今回の受審に臨みました。本学医学科の教育課程の改善が、評価での指摘を活かしながら連綿と続くことを期しています。

第2023-008号

認定証

東京慈恵会医科大学医学部医学科 殿

医学教育分野別評価の結果 評価基準に適合していることを認定する

― 認定期間 ―

自 2023年10月1日 至 2030年9月30日

2023年9月15日
一般社団法人 日本医学教育評価機構
理事長 寺野 彰

No.2023-008

CERTIFICATE

The Jikei University School of Medicine

This is to certify that the above medical school satisfies the standards for Basic Medical Education and is accredited by Japan Accreditation Council for Medical Education (JACME)

Accreditation Period
October 1, 2023 to September 30, 2030

President Akira TERANO
Japan Accreditation Council for Medical Education
Date of Issue: September 15, 2023

Ongoing
02 研究

総合医科学研究センター
臨床医学研究所 教授
渡部 文子

恐怖による摂食抑制を担う神経回路基盤を解明

～ストレスと摂食行動の相互作用を制御する中枢メカニズムの解明に期待～

はじめに

現代のストレス社会、特にポストコロナ社会においては、心のケアや心の健康は重要な社会的課題です。私たちヒトを含む動物は、五感を使って外界の情報を得ており、その情報を脳内で処理する過程で、好き嫌いや快・不快といった情動が誘発され、忌避や誘引などの行動に繋がります。こうした正・負の情動は、生物学的には「毒や危険を避け、栄養や安全な環境を選ぶ」という生存に必須の機能といえます。さらに現代社会では、美しい絵画や音楽に感動したり、美味しいご馳走に舌鼓を打ったりといった、生活に豊かな彩りを与えてくれる大切な機能です。

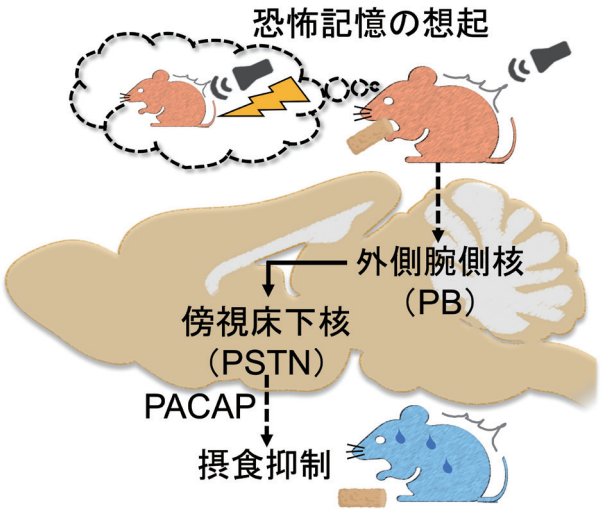
また、「摂食行動」もエネルギー摂取という点で生存に必須の行動であり、生物に本能的に備わった機能と考えらえてきました。しかしながら、恐怖や痛み、緊張やストレスといった急性・慢性の負情動や、美味しい・まずいといった正・負の味覚情動も、摂食行動に顕著な影響を与えることは経験的にもよく知られています。このように、摂食行動と情動は互いに深く関連していますが、両者を結び付けている脳内メカニズムについては、実はあまりよくわかっていません。摂食行動の制御を担う脳内のメカニズムとして、古典的には視床下部の満腹中枢と摂食中枢という二重支配によって説明されていましたが、近年の分子・回路レベルでの操作・介入技術の進歩により、詳細な経路・細胞種特異的なメカニズムが明らかになりつつあります。我々の研究成果が、摂食という生命現象の根源的理解に加えて、現代社会の喫緊の課題であるストレス関連疾患や摂食障害、様々な精神疾患のメカニズムの解明に繋がることを期待しています。

恐怖による摂食抑制における PBから傍視床下核への神経経路の発見

摂食行動は、空腹や満腹など末梢組織の栄養状態に影響されます。末梢から中枢への情報伝達には、迷走神経や脊髄を介した神経伝達の経路と、ホルモンや栄養素を介した液性因子による経路が存在します。神経経路では、脳幹の橋に存在する外側腕傍核（lateral parabrachial nucleus, PB）を経由して末梢シグナルが脳内に伝えられます。PBは摂食シグナルに加え、恐怖や痛み、味覚などの様々な情動シグナルも伝達することから、摂食と情動の相互作用における重要なハブであると推察されました（Nagase et al., 2019）。我々はこれまでに、PBの主要な投射先の1つである扁桃体中心核（central amygdala, CeA）への経路が恐怖情動や恐怖学習を制御する機構を明らかにしてきました（Ito et al., 2021）。さらに、PB-CeA経路が長距離投射である特性を活かし、軸索末端に対する光遺伝学的操作に適した新規ツールを開発してきました（Hamada et al., 2021）。そして今回新たに、全脳レベルの神経回路解析を行い、PBがCeAに加えて分界条床核や視床下部の傍視床下核（parasubthalamic nucleus, PSTN）など多様な脳領域に投射を持つことを見出しました（Nagashima et al., 2022）。PSTNは、視床下部の尾側側に位置するタキキニン発現細胞を豊富に有する神経核であり、絶食後の再摂食で活性化し、摂食抑制に関与することが知られています。しかし、PSTNの情動への関与についてはよく分かっていませんでした。そこで我々は、モデルマウスを用いて、PB-PSTN経路に着目し、

摂食行動と情動を結びつける神経基盤を解析しました。光遺伝学的なアプローチによりPB-PSTN経路を人工的に活性化させたところ、回避行動と逃避行動が誘導されました。また、同一個体の摂食行動を調べたところ、回避行動を強く示した個体ほど摂食行動が抑制されたことから、PB-PSTN経路による摂食抑制は嫌悪シグナルが担っていることが示唆されました。さらに、実際に嫌悪や恐怖情動を誘導する環境下においても、光遺伝学および薬理遺伝学的手法によってPB-PSTN経路を抑制すると恐怖依存的な摂食抑制が抑えられることから、この経路が恐怖による摂食抑制に必要であることを初めて明らかにしました。

PSTNには、下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ポリペプチド（pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide、PACAP）を発現する細胞が豊富に存在しています。急性脳切片を用いた電気生理学的アプローチにより、PB神経からPSTNのPACAP発現細胞に直接の興奮性投射があることも見出しました。さらに、光・薬理遺伝学やPACAP受容体のアンタゴニストを組み合わせた行動学的解析により、PB-PSTN経路は、PSTNのPACAP発現細胞を介して、PACAPシグナルに修飾される嫌悪シグナルを伝達することで、恐怖による摂食抑制に関わることが明らかとなりました（図）。



摂食行動と味覚情動の相互作用

摂食行動は、恐怖や嫌悪などの情動以外にも、美味しい・まずいといった味覚情動とも密接に関連しています。興味深いことに、ビールやコーヒーへの嗜好性のように、味覚の情動価は経験依存的に変容しうることが知られています。こうした経験依存的な行動変容の神経基盤を明らかにするため、我々はマウスを用いて味質の長期間暴露を行ったところ、苦味水暴露によって苦味忌避性が低下し、うま味水暴露ではうま味嗜好性が顕著に増大することを見出しました（Hamada et al., 2023）。さらに、各脳領域の活動を組織学的に調べた結果、うま味体験によって扁桃体CeAの特定の細胞種においてうま味応答が亢進していることも発見しました。CeAはPSTNにも投射することから、味覚体験による可塑性メカニズムが、味覚情動による摂食調節機構の一端を担うことも示唆されます。

おわりに

摂食行動には栄養的側面のみならず様々な情動的側面が関連します。我々が着目している脳領域の1つであるPBは、恐怖や嫌悪といった負情動と、うま味などの正情動の制御に関わっています。最近、我々はPBから腹側被蓋野（VTA）への経路が行動タスクに応じて正負の情動価の調節に関わることを発見しました（Nagashima et al., 2023）。これら一連の研究は、内的状態に応じた情動価や適応行動などの調節基盤の解明に繋がることが期待されます。摂食と情動の制御基盤の解明は、医療や食育の社会的な観点からも重要です。摂食障害や精神疾患の治療法の進展や、科学的な食育の解明やそれを通じた健康増進、さらには多様な食文化の理解にも繋がることが期待されます。

柏病院と臨床医学研究所を背景に満開の桜を愛でるラボメンバー一同

参考文献
Nagase et al., 2019, ***Current Opinion in Behavioral Sciences***
Ito et al., 2021, ***Molecular Brain***
Hamada et al., 2021, ***Communications Biology***
Nagashima et al., 2022, ***Nature Communications***
Hamada et al., 2023, ***Molecular Brain***
Nagashima et al., 2023, ***Frontiers in Neural Circuits***

Ongoing

03 診療

精神医学講座 准教授
小高 文聰

薬物療法に反応しない双極性障害のうつ状態に対する反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）

はじめに

双極性障害は抑うつエピソード（持続的に気分の落ち込みや興味・関心の喪失がある）と、躁病エピソード（気分の高揚）を繰り返す精神疾患である。これまでの研究で双極性障害は、躁病エピソードに比べ抑うつエピソードの期間が長いことが知られている。双極性障害の治療は「気分安定薬（炭酸リチウム、抗てんかん薬、一部の抗精神病薬）」を用いた薬物療法が第一選択となる。抑うつエピソードに対して奏功する薬物は少なく、長期にわたり抑うつが遷延することがある。うつ病性障害に比べ双極性障害の自殺率は高いことが知られており、臨床現場では、抑うつの苦痛を緩和するための新しい治療法が求められている。

反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）

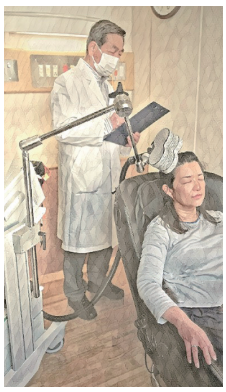
経頭蓋磁気刺激（transcranial magnetic stimulation、以下TMS）はファラデーの電磁誘導の法則注1を応用して生体を非侵襲的に直接刺激する技術である。コイルに瞬間的に電流を流し周囲に形成される変動磁場を伴う「渦電流」によってニューロンを刺激すると考えられている。このうち規則的な刺激を反復して行う刺激法を反復経頭蓋磁気刺激（repetitive TMS：rTMS）と呼び、ニューロンへの高頻度刺激は皮質興奮性に対して促進的に作用し、1Hzの低頻度刺激は抑制的作用を有することが知られている。うつ病性障害では左前頭皮質への高頻度刺激、すなわち促進的な効果を期待してが行われるが、双極性障害のうつ状態に対しては、右前頭皮質への1Hzの低頻度刺激、すなわち抑制的作用を期待して行われる。

双極性障害のうつ状態に対するrTMS

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（NCNP）病院、東京慈恵会医科大学附属病院、および慶應義塾大学病院は3機関多施設共同で、薬物療法に反応しない双極性障害のうつ状態の患者を対象に、rTMS　の有効性と安全性を検証し、医療機器の薬事承認および保険適用を目指している。本治療はランダム化二重盲検偽刺激対象比較試験として、「先進医療B」の枠組みで実施中である。

「先進医療」とは、患者の①安全性の確保、②負担増大の防止、③治療選択肢の拡大、④利便性の向上という観点から、有効性、安全性を確保するために、施設基準を設定し、承認された保険医療機関で、将来的な保険導入のための評価を行うものとして保険診療との併用を認める制度である。「先進医療」は「先進医療A」と「先進医療B」に分類される。先進医療A は「未承認等の医薬品や医療機器の使用、または適応外使用を伴わない医療技術、もしくは、未承認、適応外

■ rTMSの施行の様子



注1：ファラデーの電磁誘導の法則

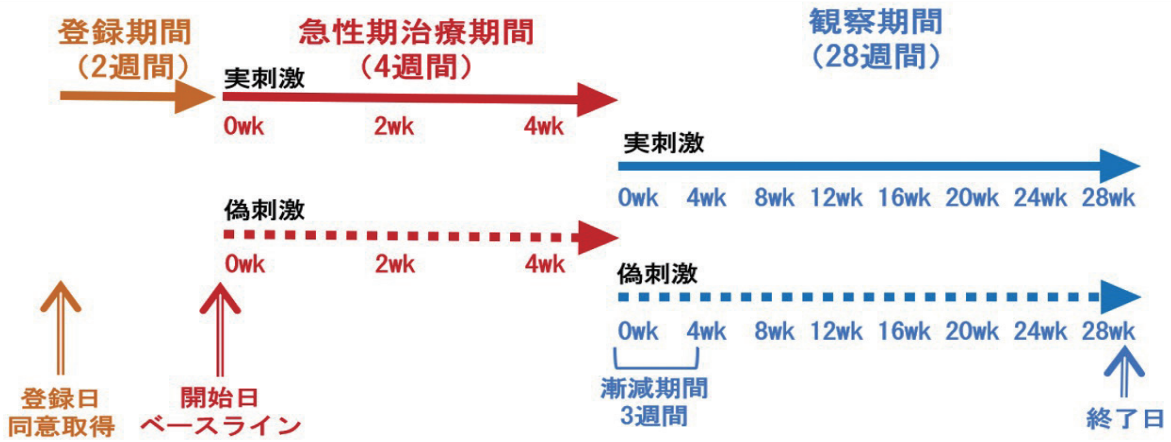
ファラデーの電磁誘導の法則は19世紀前半にイギリスの物理学者マイケル・ファラデーによって発見された。コイルなどの導体が磁束の変化を受け、誘導起電力が発生することを電磁誘導あるいは電磁誘導作用というが、ファラデーの法則は、その誘導起電力の大きさがその回路を貫く磁界の変化の割合に比例するというものである。

■ rTMS治療器（MagProR30）

注2：

ハミルトンうつ病評価尺度（Hamilton's Rating Scale for Depression; HAM-D/HDS）は、Hamilton（1960）によって作成された、うつ病と診断された患者さんにおける、うつ症状の重症度を測定するための評価尺度である。高得点であるほど抑うつが重いと評価される。

試験の概要



であっても人体への影響が極めて小さいもの」を指す。一方、先進医療Bは「未承認等の医薬品や医療機器の使用、または適応外使用を伴う医療技術、もしくは、未承認、適応外使用を伴わない医療技術であっても、当該医療技術の安全性、有効性等に鑑み、その実施に係り、実施環境、技術の効果等について特に重点的な観察・評価を要すると判断されるもの」を指す。

組み入れ基準は以下の通りである。①米国精神医学会の精神障害の診断と統計マニュアル（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders、DSM-5）で定義される双極性障害（I型およびII型）の患者で抑うつエピソードの診断基準に合致する患者、②0歳以上75歳以下、③ハミルトンうつ病評価尺度17項目版注2の点数が18点以上、④最近の抑うつエピソードが3年未満、⑤現在の抑うつ状態において、リチウム0.8mEq/L以上の適切な血中濃度となる処方量/日、クエチアピン300mg/日、オランザピン5-20mg/日、ラモトリギン200mg/日、ルラシドン20-60mg/日のいずれかを8週間以上投与しても反応しない。

rTMS治療器はMagProR30（MagVenture, Denmark）を使用する。刺激条件は、刺激頻度1Hz（低頻度）、刺激強度 120%MT（motor threshold、運動閾値）、刺激時間 1,800 秒、刺激回数 1,800 回（30 分）である。実刺激群および偽刺激群への割付け後、右前頭前野への刺激を週5日、4週間行ったのち、6ヵ月間の観察を行う。先進医療についての自己負担はない。

おわりに

双極性障害のうつ状態に対しては、右前頭皮質への低頻度刺激として行われることが特徴である。双極性障害のうつ状態は、臨床的にしばしば「地を這うような」と表現されるほど日常生活に影響を与えるものであり、薬物療法以外の新たな治療的アプローチが期待されている。

Nursing

地域連携看護学研究センター

(Jikei Academic Nursing Practice for the Community: JANPセンター)

慈恵第三健康推進センターと連携した今後の活動へ

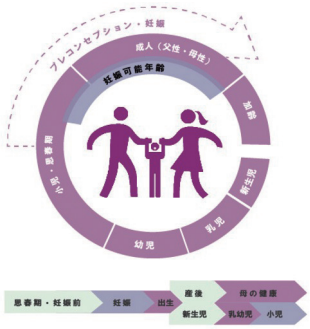
看護学科 小児看護学 教授
高橋　衣

地域連携看護学実践研究センターは、2018年度に「地域住民の生きる力を看護の力で支える」ことを目指して設立された。Academic Nursing Practiceは、看護学の発展とヘルスケアの質の向上を目的とし、教育、研究、臨床ケアの意図的な統合を意味しており、国内外の多くの看護系大学で、機能を備え活動している。JANPセンターは、慈恵第三病院看護部、慈恵健康推進センター、慈恵第三看護専門学校、さらに立地を生かし、調布市・狛江市の自治体、近隣大学、地域住民の皆さん、在宅訪問看護ステーション等の専門職の皆さんと連携し活動している。

JANPセンターは、「みんなの活動」「みんなの学び場」「みんなの保健室」の3つの事業と、3部門を支援する「ニーズ・リソースマッチンググループ」「広報グループ」からなる。設立してまもなくコロナ禍となり、JANPセンターの活動は、医療を支える看護職とその子ども達、新人看護師への支援を中心に行った(同誌vol37.で報告)。設立以来、「みんなの学び場」では、公開講座、医療的ケア児の対策支援として“にじいろスマイルの会”のスタート、コロナ禍では紙媒体やオンデマンドでのニュース配信を行い、2023年度になり対面での公開講座を再開した。「みんなの保健室」では、多摩川住宅内の施設を利用して“みんなの保健室”を継続的に開催し、2023年には、鹿児島大学、宮崎大学、本学の3大学連携交換実習を行った。「みんなの活動」では、慈恵第三病院院認知症疾患医療センターと連携し継続的に活動を行うとともに、教員・学生のボランティア活動の推進を行っている。

▶JHOPセンターとJANPセンターとの連携した活動の必要性

東京慈恵会医科大学附属第三病院は、現在、新病院リニューアルが行われている。新病院の基本理念は、「シームレスな医療をもとに地域社会に貢献する、機動性と機能性の高い基幹病院」である。すでに「慈恵第三健康推進センター」(Jikei Health Optimal Promotion Centre: JHOPセンター)を開設し、狛江市・調布市と連携しながら、健康推進に向けての取り組みを実践し、「慈恵ガジュまる教室」として、健康教室や健康相談窓口を設置して、市民のための活動を開始している。JANPセンターの理念である「地域住民の生きる力を看護の力で支える」ことは、JHOPセンターとの連携によって、医療・看護・教育・研究という視点で地域社会に貢献することとなり、さらに拡大されると考える。



生涯のうちのプレコンセプションケアの位置づけ
(WHO・成育医療研究センター関連サイトから引用)

▶慈恵第三健康推進センターと連携した若者世代のヘルスリテラシーへの支援

今年度、ニーズ・リソースマッチンググループを中心として、「調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー、健康行動、QOL、の横断調査」を行った。ヘルスリテラシーとは、健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力のことである。コロナ禍を経て改めて、調布市・狛江市在住・在勤者の18歳以上の方を対象に調査研究を実施した。この調査研究の結果から明らかになった各世代の特徴と課題を踏まえつつ、2024年度の活動に反映していく予定である。調査の結果は、論文として報告する予定であるが、若者世代のヘルスリテラシーに注目する必要性が示唆された。

若者世代のヘルスリテラシーに注目する活動として、慈恵第三健康推進センターからのプレコンセプションケアに関する支援の提案がなされた。プレコンセプションケアとは、女性やカップルの健康、そして次世代を担う子どもたちの健康をより良くすることをゴールにしている。2021年には成育基本法に基づく成育基本方針として、母体となる女性、さらにカップルが心身の健康のために生活を見直し、家族計画、医療・薬物療法の影響への配慮、感染予防、喫煙・栄養・体重等の日常の健康管理が行えることを目指す支援として位置づけられている。東京都もプレコンセプションケアに注目し、東京ユースヘルスケア推進事業として「TOKYOプレコンゼミ」を展開している。

連携活動の第一歩として、「プレコンセプションケアを通じて地域がつながる」ことを目指し2023年11月に慈恵大学第三地区(慈恵第三健康推進センター、慈恵第三病院看護部,慈恵第三看護専門学校)22名の有志が集い、〔プレコンセプションケアを提供するために、わたしたちにできること〕をテーマに学習会を開催した(写真)。2024年3月には慈恵大学第三地区メンバーに加え、狛江市、調布市の行政、医師会、教育機関(小・中・高・大学)の方々と学習会を計画している。

今後もJANPセンターは、慈恵第三健康推進センター(JHOPセンター)と連携しつつ、社会のニーズと課題を把握しながら、医療・看護・教育・研究という視点から、「地域住民の生きる力を看護の力で支える」活動を継続していきたい。

プレコンセプションケア・第1回学習会集合写真 2023.11

Topics

学校法人慈恵大学 SDGsの取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）は、全世界で取り組むべき17のゴールを掲げ、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」社会の実現を目指しています。学校法人慈恵大学は、建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づく教育、研究、医療を実践し、人類の健康と福祉に貢献することを目的・使命としており、教職員・学生は、だれかのために、みんなのために、という思いのもとで、活動しています。SDGsの達成に向けて、いま、私たちにできることから、取り組んでまいります。

本学の取り組み事例

本学が取り組む目標

本学の取り組み事例	教育	研究	医療	法人運営
建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づき、人類の健康と福祉に貢献する教育、研究、医療活動を実践する	●	●	●	●
多くの教育機関、医療機関、行政機関と連携し、質の高い教育を提供する	●			
医学・看護学研究の振興を通じて、医療の質の向上に寄与する		●		
地域医療において中心的な役割を果たす			●	
地域連携看護学実践研究センター（JANPセンター）を運営し、看護の力で地域住民の生きる力を支える活動を展開する	●	●	●	
港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」を運営し、がん患者と家族に対する多角的な支援を展開する			●	
建学の精神を実践できる医師・看護師を育成し、社会に輩出する	●			
奨学制度の拡充などを通じて、学ぶ機会を広く提供し、学生の修学を支援する	●			
大学、大学院、附属病院、法人がFD（faculty development）・SD（staff development）を開催し、教職員の成長を促す	●	●	●	●
Society5.0時代を見据えた先駆的な取り組みを学ぶ機会を提供する	●			
「市民公開講座」「出張講義」などの一般市民向けのイベントを開催し、医学・医療について学ぶ機会を提供する			●	
「医療連携フォーラム」「働く人の健康支援研究会」などの医療者向けのイベントを開催し、医学・医療の最新の情報を得られる機会を提供する			●	
多様な人材が活躍できる労働環境を整備する				●
新卒障害者を積極的に雇用する				●
ハラスメント研修の実施や相談窓口の設置により、性別に基づく差別をなくす				●
学生相談室を設置し、教育現場のジェンダー平等とハラスメント撲滅を推進する	●			
ライフイベントにより研究活動を中断した研究者の復帰支援制度を整備する		●		
教職員の評価処遇制度の構築と福利厚生事業の充実により、働きがいを高める				●
研究者と研究支援者の協働関係を構築し、働きがいがある研究体制を構築する		●		
産官学連携によりパートナーシップを構築し、研究（社会貢献）活動を推進する		●		
産学官連携を推進し、研究成果を社会実装につなげる		●		
近未来の医学・医療に繋がる革新的な研究を推進する		●		
治療と仕事の両立支援を推進する			●	
デジタル化を推進し、廃棄物を削減する				●
Reduce（ごみを減らす）、Reuse（繰り返し使う）、Recycle（資源として再利用する）、Repair（修理）による4R活動を推進する				●
地球環境に配慮した安全・安心なキャンパスを整備する				●
省エネルギーと温室効果ガス排出総量削減を推進する				●

詳しくはこちらをご覧ください　https://www.jikei.ac.jp/sdgs/

PDCから
PDCAへ

大学基準協会による機関別認証評価の実施について

東京慈恵会医科大学 学長補佐
学校法人慈恵大学
内部質保証推進委員会委員長
柳澤 裕之

本学は、学校教育法に定められている7年ごとに行われる機関別認証評価を10月30日（月）～31日（火）の2日間にわたり受審いたしました。

大学基準協会から評価者6名、事務局員2名が来校し、実地調査が行われました。認証評価の目的は大学基準協会が定める「大学基準」に基づき大学を包括的に評価することで、大学の教育研究活動の質を確認し、その結果を社会に公表することです。

この目的のために、下記の評価が実施されました。

1）学生インタビュー（10月30日 11:00～12:00）

医学部医学科、医学部看護学科、大学院医学系専攻、大学院看護学専攻の学生8名が参加
建学の精神・理念の認知度、カリキュラム、学習方法と成果、学生支援などについて質疑応答が行われた。

2）全体面談・個別面談

1）10月30日（月）13:00～14:30
　全体面談１（基準1～基準5）
2）10月30日（月）14:45～15:25
　個別面談１（自己点検・評価について）
3）10月30日（月）15:30～16:00
　個別面談２（学生の受け入れについて）
4）10月30日（月）16:10～17:10
　全体面談２（基準6～基準8）
5）10月31日（火）10:00～10:45
　個別面談３（教育課程について）
6）10月31日（火）11:45～12:30
　個別面談４（地域連携・社会貢献について）
7）10月31日（火）14:00～16:00
　全体面談３（基準8～基準10、その他全般を通じて）

点検・評価報告書に基づく大学評価（認証評価）結果分科会案の質問事項に沿って質疑応答が行われた。

3）施設見学

1）10月31日（火）10:55～11:35
　図書館・学生自習室（大学1号館8階）と
　実習室（大学1号館5階）

4）学長によるプレゼンテーション

全体面談1の冒頭30分間で、松藤学長によるプレゼンテーションが行われ、建学の精神、大学の概要、法人全体の内部質保証システム構築の取組み、今回の自己点検・評価で明らかになった本学の長所・特徴、課題、改善・向上に向けた計画等について、パワーポイントスライドを用いて説明があった。

5）大学の将来に向けた意見交換

栗原理事長より本学の運営と医学教育に関する将来展望について、谷口専務理事より本学の財政状況と物価高を含む医療収支の動向について、加藤事務局長より少子高齢社会における大学と附属病院職員の採用と育成について、それぞれ見解が述べられた。

6）講評

貴学の特長として、学生が相互に協力し合い、みずから学ぶ姿勢を有していることがあげられる。貴学の歴史と伝統によるものである。一方、教員や学生の個々の努力や特性に依存することなく、歴史と伝統を大切にしながらも、時流に沿った体系的・組織的な制度を確立することも検討するとよいと思うとの感想が述べられた。

7）閉会の挨拶

松藤学長より、今回の認証評価の受審にあたり、本学の内部質保証推進の体制が構築されたが、今回の評価結果を踏まえ、更に精度を高めていきたいとの感想が述べられ、評価員各位による2日間の実地評価に謝辞が述べられた。

大学評価結果は2024年3月に大学基準協会から本学に通知されます。「適合」と認定された場合は認定証が交付されます。また、認定結果は文部科学大臣に報告されるとともに、大学基準協会ホームページを通じて公表されます。大学評価結果を受領した後は、5月1日までに点検・評価報告書を大学ホームページに掲載する予定です。

本学は、大学評価結果を通じて見出された改善を要する事項の検討とその結果の提示といった一連のプロセスを通じて、大学の改善・向上を図ります。

栗原 敏 理事長チーム

島崎崇史（環境保健医学）、星愛美（研究推進課）、羽富麻里菜（総務課）、
内野航平（業務課）、記録：植松美知男（経営企画部）

アナログ業務が多い。人や時間が足りないと言うだけでなく、ロボティック・プロセス・オートメーションなどを導入し、対面で行う必要がある本来の業務に専念できるように。来年度から始まる医師の働き方改革の波が看護や事務の改革にもつながれば。

「不安を持った患者さんに対して、受付で少しでも不安を取り除いてあげてほしい」という学校の先生の言葉がきっかけに。本学の理念に共感して入職した。

長い歴史は強み。学祖が築き上げた風土が良い。事務職員もチームの一員として対等に見てくれる。コロナ禍の影響でe-ラーニングが増えたが、対面で交わる機会が大切。

事務職員も患者さんに接することを志望して入職する人が多いが、配属先によって裏方で作業をこなすだけになることも。医療現場と近いところで支えているという実感を持てるように。

法人があって大学があって病院もあるところに就職したら、自分のスキルや視野が広がると思って。他大学よりも温かみを感じ、人を大切にしているところに惹かれた。

教職員の能力が高いがゆえに講座や自身で完結してしまう。他分野との交流から新しいものが生まれるのに、学内の接点が少なく、孤立感がある。もっと交流の機会が欲しい。

学祖に関する事業を多く行っているのに、教職員に認知されていないのはもったいない。慈恵で働くことを誇りに感じ、同じ想いを持った教職員が集まれば、10年後もっと良くなるはず。

Topics

慈恵の未来を語ろう! 車座トークを開催

本学は2031年に創立150周年を迎えます。社会から求められる大学として、また、教職員の皆さんが明るく働ける職場として、これからも進化・発展していくために、どんな取り組みが必要でしょうか。慈恵の未来を作るのは教職員・学生の皆さんです。

このような問いかけのもと、学祖の墓参の日である2023年11月11日（土）に西新橋キャンパス2号館講堂で、大学執行部6名、教職員25名、学生7名による車座トークを開催しました。この企画は学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会が進める“理念行動化戦略”の一環で、2023年度から新たに始めた試みです。記念すべき第1回ということで、入職後8年以内の若手教職員を中心に募り、医学科、看護学科、看護専門学校の各学生にも声を掛けました。

組織も立場も超えたこのようなメンバーが一同に会する機会はこれまでなく、普段ほとんど接することがない大学執行部の皆さんを前に、開始当初は神妙な面持ちでしたが、「本学に就職・入学しようと考えたきっかけは？」「就職・入学前に持っていたイメージは実際に入ってみて違っていた？」「本学の強みは？」「慈恵ブランドって何だろう？」と話し進めるうちに、拍手や笑い声も漏れ聞かれ、和やかな会になりました。皆さんから出されたざっくばらんな意見を今後の大学づくりに活かしていきます。

各チームのコメントと写真の配置に対応関係はありません

松藤 千弥 学長チーム

暮地本宙己（細胞生理学）、佐古周平（小児科）、太田あゆ美（地域看護学）、
八木智子（学事課・西新橋校）、渡辺弦輝（臨床工学部）、記録：大亀和之（秘書課）

病院で実践経験を積む中で専門分野を追究したいという思いがある。実際に、日常業務をこなしながら大学院に進学し、学位を取得する人は少ない。自分の人生設計の中でどのタイミングで進学するべきか、どうやって勉強を継続していけばよいかを悩んでいる。

総合大学と違い堅いイメージ。教員や他職種と距離がありそうで不安だった。実際は職種に関係なくコミュニケーションを密に取れて働きやすい。部署間の垣根が低く、相談しやすい。

教育に対して厳格で透明性が高い。先生と学生の距離が近く、先生方は学生思いで熱心にサポートしてくれた。学生時代にもっと講義に出れば良かったなと。

コロナ禍でICTの活用が進み、eラーニングの導入や学位審査会のオンライン化など、社会人大学院生が現地に赴かなくても効率的に学べるようになった。

慈恵の先生方はバブリーで華やかな印象がある一方、愛校心が強い。OB・OGを大事に思っており、働く・学ぶコミュニティがしっかり整っている。

大学院に通いながら、仕事も継続し、出産を控えており、両立の難しさを感じる。職種や性別に関わらず研究したい人は沢山いるので、この人たちを支援するしくみが必要。

研究に対する興味を内に秘めている学生が多い。このような心の中の芽を育てることができれば、10年後は研究する人がもっと増えるはず。

小島 博己 病院長チーム

酒寄葉（腫瘍血液内科）、日塔一茂（給与厚生課）、近藤祐輔（放射線部）、
茂木茜（リハビリテーション科）、年見有加（看護部）、記録：横井由紀枝（管理課）

医療は、IT化を進めても、人がいなければできないことが多い。人件費を抑制するよりも、人を充足させて余裕を持たせ、楽しい職場にする。そうして、みんなでがんばって収益を上げていくほうが明るい未来につながるのでは。

医師と他職種の距離が近く、聞いたらすぐに答えてくれる。医師からのフィードバックやアドバイスは非常に勉強になり、やりがいになる。

専門医、学位、新しい治療や高度な治療を学べることが大学病院で働き続けるモチベーション。人がいない、教育ができないという環境では、みんな外に出ていってしまう。

仕事を続けていくために、やりがいとワークライフバランスが大切。給料アップが難しくても、これらを充実させるためのサポートがあれば、10年後もっと強くなるはず。

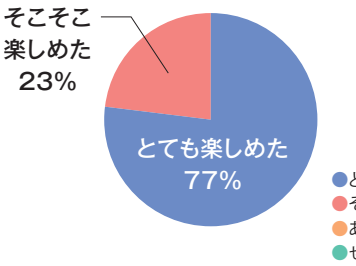
医療や教育は公共性が高い。自分が縁の下の力持ちに向いていると思って。一日が部署内で完結するため、現場のことが見えなくて、気持ちが離れていく感じがある。

研究をやりたいと望んでいる人には、大学病院は物足りない。人が足りなければ留学に行きたくても行かれない。研究できる余裕がある労働環境を創ることが重要な課題。

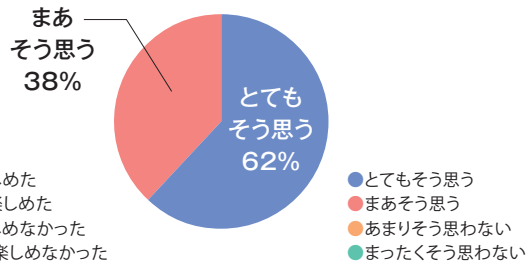
これを言ってよいのか、控えるべきなのかを迷う瞬間がある。心理的安全性を根付かせ、部署の垣根を越えていろんな人たちがディスカッションできる組織になれば。

参加後のアンケート結果

今回参加してみて、いかがでしたか。



車座トークを来年度また開催するとしたら、身近なひとに参加を勧めたいと思いますか。



普段お話しする機会が無い方たちとざっくばらんに語り合うのは、思っていた以上に楽しい経験になったようです。車座トークは来年度も11月第2土曜日に開催する予定です。ぜひ多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

横尾 隆 副学長チーム

千葉明生（細菌学）、細谷聡史（産婦人科）、橘木修志（生物学）、塩原憲治（学事課・西新橋校）、
伴野未沙（医学科6年）、鳥居宏美（看護学科3年）、記録：星野洋二（教員・医師人事室）

仲間意識やつながりの強さは強みでもあり弱みでもある。考え方が似た人たちが集まり、みな同じ方向を向いている。単科大学で他の領域の教員・学生がいないので、外部との連携が大切。このためのきっかけを多く作るとよい。

慈恵のことは入職するまで知らなかった。教員と学生の距離が近く、教員が職員にも対等に接してくれる。良いイメージに変化した。

組織が小さいため、一人ひとりが属人的に業務を処理しなければならない。教職員はみな人が良いので、大学がそれに頼っているように見える。

多くの学生が卒業後は他の病院に就職することを考えている。本学に就職した場合の働き方のイメージがわかない。

出身大学に関わらず教員間の垣根が低い。隣の研究室との距離が近く、連携を取りやすい。基礎研究を行うには良い環境。

誰もが臨床に進むものと考えられており、基礎研究や医系技官などに興味を持っていても、一歩を踏み出しにくい。

若いうちは豊富な症例を経験できるという魅力があるが、年齢を重ねると、収入面や体力面で厳しくなり、将来に不安を感じる。

岡部 正隆 副学長チーム

青沼宏佳（熱帯医学）、百田禎郎（細胞加工施設）、長田恵梨香（基盤研究施設）、浅川友祈子（母性看護学）、佐藤安純（研究推進課）、小貫友暉（医学科6年）、記録：南波 勉（研究推進課）

情報の発信力が弱い。学内でどのような研究が行われているのかがわからない。研究者同士が自由に連絡しあえるように、興味のある方を募集するネット掲示板があっても良いかも。家族を連れてくる研究室見学ツアーのようなイベントを企画してはどうか。

学内の関係がおっとりしている感じ。職種に関係なく壁が低い。和を大切にしており、人との距離が自然と近くなる。

くだらない会話の中から新しいものが生まれる。WEB会議ではできない対面のちょっとした雑談が大切。お酒を飲みながら話せた時代は良かった。

もっと研究できると期待していたが、教育と委員会に時間を取られ、研究はすきまの時間にやるしかないのが実情。

各自が自由に研究することが認められていることに驚いた。熱心に取り組んでいると、ベテランの先生が忙しくても教えてくれて、伸び伸びと研究が行える。

さまざまな説明会を定期的に開催しているが、学内の研究者に情報が届いていないように感じる。写真や動画を簡単に発信できるSNSを導入したらどうか。

10年後の慈恵を考えると、この距離を保ちながら、盛り上がりを作ることが重要。大学としてコミュニケーションを取りやすくする工夫が必要。

慈恵の未来を語ろう! 車座トークを開催

理念行動化戦略とは

教職員・学生一人ひとりが
建学の精神を常に念頭において
日々の活動に取り組むことで、
本学の価値を高める活動。
“慈恵ブランド”をめざす。

1. 見える化	イントラネット、電子カルテ、研修会等で「見える化スライド」を掲載（2022年度）
2. 自分ごと化	「見える化スライド」の新たなデザインを教職員・学生から募集（2023年度）
3. 文化化	学祖の墓参の日に慈恵の未来を語ろう! 車座トークを開催（2023年度）

柳澤 裕之 委員長チーム

馬場有夢（医学科6年）、猿田健（医学科2年）、上遠野美月（看護学科3年）、遠藤眞緒（看護専門学校）、鎌田進（学事課・国領校）、宮沢祐太（薬剤部）、記録：赤石和久（研究推進課）

オープンキャンパスの在校生とのトークイベントの中で、先生たちのことが大好きと言えるくらい、生徒が学校に愛を持っていると感じたところは他になかった。生徒が大事にされている学校なのだと感じた。

オープンキャンパスで学生が楽しそうだった。学生に責任を委ねられている分、何でもやりたいことをやってよいという雰囲気がある。

少人数制で先生の人数が多く、学生のことを一人ひとり見て、気に掛けてくれる。卒業後も先生と相談しやすい環境がある。卒業生の結びつきが強い。

学生のうちから研究に携わる機会があり、研究に入りやすいけれど、臨床で働きながら研究に必要な時間を割くのは難しく、研究を続けにくいように思う。

オンライン授業で自分の時間を作れるため、趣味と勉学、部活と学業を両立しやすい。自学自習の精神や友人と共に学ぶ姿勢を1年次に叩き込まれた。

他から来ても、慈恵に入ったのだから慈恵人でしょと、身内のように接してくれる。いろんな人たちと関わり合いながら勉強できる環境がある。

知名度が低い。大学名を言っても通じないことが多い。高木兼寛先生のことも内外にもっと浸透してほしい。外に発信する力が必要。

The JIKEI

News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介いたします。

2023年4月～2023年11月

4月

第31回日本医学会総会より「楯」を受贈

ビッグデータが拓く未来の医学と医療 ～豊かな人生100年時代を求めて～

第31回日本医学会総会2023東京が2023年4月21日から23日の3日間、東京国際フォーラムを中心に開催されました。日本医学会総会は、141の分科会が加盟している日本医学会が日本医師会と協力して主催する学術集会で、今回は、「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」をメインテーマとして開催され、登録者数はWEB参加も合わせて約25,000名となった他、博覧会には約50万人が来場しました。本学からは栗原敏理事長が副会頭を、松藤千弥学長が記録委員長を、大木隆生教授（外科学）が登録委員を務めました。この度、第31回日本医学会総会から、開会記念特別講演会で公表された「健康社会への宣言　2023東京」を記した記念の楯を受贈しました。

「健康社会への宣言　2023東京」では、①ビッグデータによる医学・医療の変革、②革新的医薬品や医療技術を通じた未来医療の提供、③持続可能な新しい医療システムの構築と未来の医療を支える人材の育成、④パンデミック・大災害に対抗するイノベーション立国による挑戦、⑤人生100年時代に向けた医学と医療の実現の5つの柱が掲げられています。

6月

地域救急医療業務への貢献

救急部黒田徹医師が葛飾区、葛飾区医師会、葛飾救急業務連絡協議会から表彰されました。

地域救急医療業務の重要性を深く認識し、傷病者の生命と安全の確保に尽力したとして、葛飾区、葛飾区医師会、葛飾救急業務連絡協議会より2023年6月12日に開催された葛飾救急業務連絡協議会表彰式において表彰されました。

7月

第3回慈恵－Mayo Clinic ジョイントシンポジウム開催

新型コロナウイルス感染症拡大により中断したジョイントシンポジウムの5年ぶりの再開

2023年7月8日(土)、第3回慈恵−Mayo Clinicジョイントシンポジウムが、「Reunion of Jikei and Mayo overcoming the Pandemic」をテーマとして、本学にて開催された。

Mayo Clinicからは、講演者として、ミネソタ州の病院のDr. James S. Newman、Dr. Joerg Herrmannのほか、フロリダ州の病院からDr. Pablo Moreno Francoの参加があった。本学からは、藤田雄講師（次世代創薬研究部）、山本和央講師（耳鼻咽喉科学講座）、武田聡教授（救急医学講座）の講演とともに、今回は、研修医2名、医学科6年2名がモデレータを担当し、今後、より多くの若手医師、研究者が本シンポジウムの開催に関わっていくことが期待された。

7月

大学院における次世代がんプロフェッショナル養成プランについて

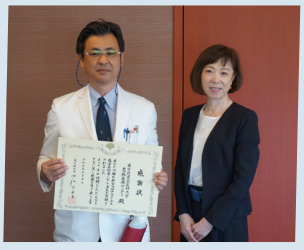
腫瘍センター センター長 外科学講座
教授 宇和川 匡

4大学院連携がんチーム医療ワークショップ

本邦におけるがん医療を担う人材不足を解決するために、文部科学省事業として**がんプロフェッショナル養成プラン**（通称、がんプロ）が2007年よりスタートし、本学は筑波大学を代表校とする連携大学として2017年から始まった第3期がんプロから初めて参加することとなった。第3期がんプロでは、本学において多くのがんプロフェッショナルが育成され、この実績が評価され2024年から開始される第4期がんプロ「次世代がんプロフェッショナル養成プラン」への参加が叶った。第4期がん対策推進基本計画に沿って第4期がんプロで育成すべき人材は、1）**がん治療を支える多領域人材**2）**がん治療イノベーション人材**3）**がんデータ科学推進人材**となった。本学において大学院医科系専攻においては、これらに対応した3科目を新設するとともに、大学院看護学専攻においては**がん治療を支える多領域人材**の育成を行う。

本学のがんプロ参加以前から継続されてきた昭和大学、星薬科大学、上智大学との4大学院連携がんチーム医療ワークショップ（例年は夏の二日間で）も多職種のがん医療人の育成の場として貢献してきた。この活動も合わせて継続的に行なっていく。

7月



葛飾医療センターに東京都知事から感謝状が贈呈されました。

新型コロナウイルス感染症対策への貢献について

新型コロナウイルス感染症対策に対する当院の貢献に対し、東京都保健医療局成田友代技監、小原昌感染症対策調整担当部長が2023年7月13日に来訪され、小池百合子東京都知事からの感謝状の贈呈が行われました。

当院は2020年4月1日から贈呈日までに、延べ1,234名の新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れや地域住民に対するワクチン接種等を行っており、それらに対する貢献に対して、東京都知事から感謝状が贈呈されました。

8月

宮崎市「高木兼寛顕彰事業」特別大使

中学校からの代表生徒と教職員等14名が来校。4年ぶりの開催となる

8月2日（水）、特別大使として、学祖高木兼寛の出身地である高岡町をはじめ宮崎市内各中学校からの代表生徒と教職員等14名が来校されました。新型コロナウイルス感染症のため、4年ぶりの開催となり、今年で22回目を迎えました。松藤千弥学長、竹森重教授より、高木兼寛の偉大な功績や、本学が進めている医学教育等について聴講し、学内を見学しました。特別大使一行は、各見学場所での説明を熱心に聞き入り、ノートをとり、写真を撮影するなど、改めて、高木兼寛の功績を再認識したものと思われます。

8月

宮崎市立穆佐小学校本学招待旅行

穆佐小学校の児童及び教諭の本学招待旅行が47回を迎える

学祖高木兼寛の出身地である宮崎県高岡町の穆佐小学校の児童及び教諭の本学招待旅行は今年で47回目を迎え、2023年8月7日～8日に行われました。毎年3日間の行程で行なわれますが、今年度は台風6号の接近により、短縮での招待旅行となりました。松藤学長、南沢教授（アウトリーチ活動推進委員会委員長）よる学祖にまつわる講話を聴講し、青山霊園にて学祖高木兼寛の墓参を行いました。台風の影響により、児童たちが楽しみにしていた東京ディズニーランド、劇団四季の観劇は叶いませんでしたが、旅行を通して学祖高木兼寛そして慈恵大学について多くを学び、郷土が生んだ偉人の功績を胸に刻みました。

8月

ういケアみなと 夏休み企画

がん教育イベント「親子で学ぼう！がんってなんだ？」を４年ぶりに開催

「ういケアみなと」では、2023年8月19日、小学校4-6年生と保護者を対象にしたがん教育イベント「親子で学ぼう!がんってなんだ?」を4年ぶりに開催しました。消化器・肝臓内科の澤田医師に「大腸がんってなんだ?」、腫瘍・血液内科の永崎医師に「がんの治療ってなんだ?」というテーマで、内視鏡下の切除手技や先駆的な化学療法についてわかりやすく講義をしていただきました。さらに、「健康的な生活ってなんだ?」と題してグループ学習も行い、参加児童から「けんしんに行くことがたいせつ」「はやめにがんを見つけるのがたいせつ」などの感想がありました。

今後も豊富な学内資源を活用して、地域貢献に努めていきたいと思います。

加藤勝信前厚生労働大臣が附属病院（本院）を見学

8月

オンライン資格確認システム及び その他の当院のＩＣＴへの取り組みを紹介

8月31日 加藤勝信 前厚生労働大臣が附属病院（本院）を見学されました。当院におけるオンライン資格確認システム及びその他の当院のICTへの取り組み（JIKEI　HERE・Beacapp　Hereによる医師労働時間の把握、医療機器プログラムJoinを用いた院外からのサポート、Line呼出し・診療費後払い会計）についてご紹介しました。

東京都知事から感謝状が授与されました

8月

東京都多摩立川保健所、府中保健所で行った 感染症応援業務に慈恵医大JANPセンターとして協力

新型コロナウイルス感染拡大下の2021年8月～2022年9月期間中、とくに患者発生数が多い時期を中心に、多摩立川保健所、多摩府中保健所における感染症業務支援を慈恵医大JANPセンターとして協力しました。

当時各保健所では、患者数ピーク時に一日100～200名の新規発生があり、深夜まで新規患者の疫学調査、治療継続対応、接触者対応が続きました。本支援では、看護学科教員や看護学専攻在学生複数名が夜間、休日を中心に交代で出向き、積極的疫学調査に従事しました。このたび、東京都知事から、これら支援協力に対し感謝状が授与されました。

慈恵・宮崎・鹿児島大学合同 第4回高木兼寛記念 シンポジウム開催 （開催地：宮崎市）

9月

東京慈恵会医科大学
医学部看護学科 北 素子

2023年9月8日金曜日、包括協定を結ぶ東京慈恵会医科大学医学部、宮崎大学医学部、鹿児島大学医学部の3大学による第4回「高木兼寛記念シンポジウム」が、宮崎大学を主幹とし、フェニックスリゾート　コテージヒムカにおいて開催された。セッション1では、本年度より始まった看護学科4年生総合実習での3大学連携看護学交換実習の取り組みの報告があった。セッション2では、3大学の各医学科から研究紹介が行われた。閉会後は懇親会が行われ、3大学での親交を深めた。来年度は本学が主幹となり、東京の地で開催の予定である。

9月

理念行動化戦略「見える化スライド」新たなデザインを投票で決定、表彰式を実施

高木兼寛先生が見たであろう青い空と、「患者さんの思いに応える教育、研究、医療」という思いをイメージに

学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会は、本学の理念である“病気を診ずして病人を診よ”を教職員・学生一人ひとりが日々の活動で実践し、他学にない“慈恵ブランド”を築くことをめざして「理念行動化戦略」を推進しています。この第一歩として、2022年9月から「見える化スライド」をイントラネットや電子カルテに掲載し、研修会などでも表示しています。スライド掲載から1年を迎えるにあたり、新たなデザインを教職員・学生から募集し、応募された17作品からみなさんの投票により決定しました。

第1位に選ばれた柏病院放射線部・櫻井智生さんの作品は、海軍軍人であった高木兼寛先生が見たであろう青い空と、「患者さんの思いに応える教育、研究、医療」という方向に舵を切って進んで行く思いをイメージしたものです。2023年9月13日の拡大教授会において表彰式が行われ、栗原理事長より表彰状が贈られました。「見える化スライド」は2023年9月から新たなデザインに生まれ変わり、活用されています。

10月

附属病院(本院)病院機能評価の結果報告

公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価について、2023年2月20日(月)～22日(水)に訪問審査、2023年8月24日(木)に補充的な審査を受け、2023年11月10日付で「条件付認定」の判定結果となりました。

病院機能評価は、病院の継続した質改善活動を支援することを目的としており、優れている点や改善すべき問題点が具体的に示されます。

医療法施行規則の改正に伴い、特定機能病院は、第三者評価を受審することが義務となり、当該評価及び改善のために講ずべき措置の内容を公表、措置を講ずることが努力義務とされております。

今回の結果を踏まえて、引き続き質改善活動を続けてまいりますので、ご協力くださいますようお願いします。

認　定　証

Certificate of Accreditation

認定第GB436-4号
Accreditation Number

主たる機能：一般病院3
Hospital Type-3
機能種別版評価項目3rdG：Ver.2.0

病院名 Hospital Name　東京慈恵会医科大学附属病院 THE JIKEI UNIVERSITY HOSPITAL　殿

貴病院が日本医療機能評価機構の定める
認定基準を達成していることを証する
This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JQ accreditation standards.

認定期間：2022年2月21日～2024年6月30日
交付日：2023年11月10日
初回認定：2005年2月21日

☆☆☆☆
（認定4回目）

公益財団法人　日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

代表理事　理事長　河北　博文
Chairman of the Board　Hirobumi Kawakita

10月

第140回成医会総会「成医会優秀ポスター発表賞」及び「成医会学生ポスター発表賞」の受賞

一般演題38応募があり、6篇が選出され 松藤千弥会長より賞状及び副賞が授与される

「成医会優秀ポスター発表賞」及び「成医会学生ポスター発表賞」は、ポスター発表のさらなる発展と発表者の意欲を高める目的で、一般演題(示説発表)より各3篇を選び、授与されるものであります。

第140成医会総会においては、一般演題(示説発表)に38応募があり、次の6篇（「成医会優秀ポスター発表賞」「成医会学生ポスター発表賞」各3篇）が選出され10月13日(金)、松藤千弥会長より賞状及び副賞が授与されました。

【成医会優秀ポスター発表賞】（３篇）

受賞演題1

「発生過程における大脳新皮質中間帯での神経細胞の移動様式の解析」

内藤 礼[1]、笠井 祐登[2]、中村 孝祐[3]、吉永 怜史[4]、北澤 彩子[4]、久保 健一郎[4] 殿

（1. 医学科4年　2. 医学科3年　3. 医学科5年　4. 解剖学講座)

受賞演題2

「動脈管閉鎖に局所常在組織マクロファージは関与するか」

王 玫[1]、劉 孟佳[1･2]、南沢 享[1]、中野 敦[1･2] 殿

（1. 細胞生理学講座　2. カリフォルニア大学ロサンゼルス校 分子細胞発生生物学)

受賞演題3

「細胞・機能特異的外側腕傍核－扁桃体中心核シナプス伝達の全身炎症適応応答」

佐藤 奈保子[1･2]、杉村 弥恵[1･2]、高橋 由香里[1･2]、加藤 総夫[1･2] 殿

（1. 総合医科学研究センター 神経科学研究部　2. 先端医学推進拠点群 痛み脳科学センター)

【成医会学生ポスター発表賞】（３篇）

受賞演題1

「Nkx2-5系譜マクロファージは出生後に僧帽弁リモデリングを促進する」

多田 祈[1]、劉 孟佳[2･3]、王 玫[2]、南沢 享[2]、中野 敦[2･3] 殿

（1. 医学科5年　2. 細胞生理学講座　3. 分子・細胞・発生生物学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

受賞演題2

「媒介蚊が保有する黄熱ウイルスvDNAの検出を目的とした等温遺伝子増幅法の開発」

鈴木 美菜[1]、大手 学[2･3]、嘉糠 洋陸[2･3]、青沼 宏佳[2･3] 殿

（1. 医学科3年　2. 熱帯医学講座　3. 先端医学推進拠点群 衛生動物学研究センター)

受賞演題3

「二次胆汁酸による閉塞胆管ステント由来腸球菌のバイオフィルム形成と凝集の促進」

高泉 優[1]、杉本 真也[2]、古橋 広人[3]、二口 俊樹[3]、一志 公夫[3]、炭山 和毅[3]、金城 雄樹[2] 殿

（1. 医学科6年　2. 細菌学講座　3. 内視鏡医学講座)

10月

第三病院（仮称）新本館新築工事 起工式

「シームレスな医療をもとに地域社会に貢献する、機動性と機能性の高い基幹病院」を実現する決意を確固たるものに

本学の発展を祝福するかのような快晴に恵まれた2023年10月6日（金）大安吉日、新本館（仮称、以下『新本館』と記載）の起工式が厳粛に執り行われました。

栗原敏理事長、松藤千弥学長、古田希第三病院長をはじめ大学関係者、同窓会長、設計施工関係者、並びに松原俊雄 狛江市長、長友貴樹 調布市長、保坂展人 世田谷区長など、行政、諸官庁関係者、医師会、地元自治会役員等の御来賓の御列席のもと、基本理念である「シームレスな医療をもとに地域社会に貢献する、機動性と機能性の高い基幹病院」を実現する決意を確固たるものとしました。そして、今般の起工式が、学内外の関係者の夢と希望、叡智を結集する一大事業の門出となりました。

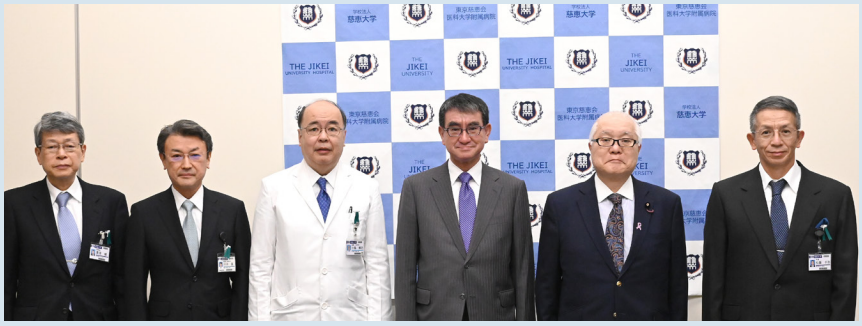
皆様におかれましては、引き続き御支援と御協力を賜りたくお願い申し上げます。

11月

武見敬三厚生労働大臣、河野太郎デジタル大臣が附属病院（本院）を見学されました

マイナ保険証の運用方法及び利用推進への取り組みを紹介

11月13日 武見敬三厚生労働大臣、河野太郎デジタル大臣が附属病院（本院）を見学されました。当院におけるマイナ保険証の運用方法及び利用推進への取り組む等を紹介しました。また、外来棟1階正面入り口（愛宕口）において、両大臣は、患者さんへビラを配り「マイナ保険証を一度使ってみませんか」キャンペーンのPR活動などを行いました。



11月

御成門中学校における スクールトレーナー制度モデル事業の実施

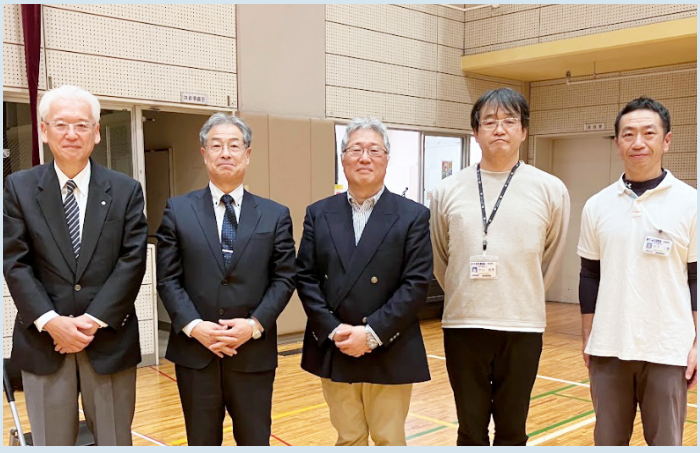
御成門中学校に出向き、1年生101名に対して、講義と実技指導を行う

スクールトレーナー制度とは、運動器に関する所定の講習を受け、試験に合格したスクールトレーナーと称する理学療法士を学校に派遣する制度である。公益財団法人運動器の健康・日本協会が全国規模での展開を目指すこの制度は、スクールトレーナーが保護者や教職員と連携して、現場レベルで子供たちの運動器疾患、障害の予防等への具体的な対応を図ることを目的にしている。本学は本年6月6日に港区および港区教育委員会との間で「包括的連携協定」を結んでおり、これを契機として、本年11月22日に港区立御成門中学校において、モデル事業として実施した。

当日は、丸毛啓史理事、安保雅博教授、中山恭秀技師長、木下一雄主任の4名が御成門中学校に出向き、1年生101名に対して、5時間目の授業として運動器に関する講義と実技指導を行った。校長先生の挨拶に続いて、安保教授が、中学生に見られるけがや故障についての講義を行った。次に中山、木下理学療法士が「サーキットストレッチ港-10」と題したストレッチとバランスチェック、正しい座り方と立位姿勢、けがをした時に使う松葉杖の使い方について実技指導を行った。50分の授業終了後は、数名の生徒から質問があった。

12月にも御成門小学校で同様の授業を行った。次年度以降についても地域貢献の一環として本活動を行う予定である。

101名の1年生との「サーキットストレッチ港10」の実施風景



左から
丸毛啓史理事、佐藤太校長、安保雅博副院長
中山恭秀技師長、木下一雄主任
（港区教育委員会指導主事、神村和輝氏撮影）

2024年(令和6年)主な行事予定表

1月20日(土)	国領校医学科・看護学科 最終講義(午後3時から看護学科・大講堂)
	大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)入学試験　(二次募集)
1月31日(水)	医学科教授退任記念講義(午後2時から大学1号館講堂)
2月3日(土)	第118回医師国家試験(2日間)
2月4日(日)	第118回医師国家試験(2日間)
	看護学科入学試験(一次試験)　(筆記試験:午前10時　国領キャンパス)
2月5日(月)	第3回学位記授与式(午後2時30分から大学1号館講堂)
2月6日(火)	看護学科入学試験合格発表(一次試験)　(午後1時)
2月7日(水)	看護学科入学試験(二次試験)(面接:国領校看護学科校舎)
2月9日(金)	看護学科入学試験合格発表(二次試験)　(午後1時)
	第110回保健師国家試験
2月11日(日)	第113回看護師国家試験
2月14日(水)	大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)入学試験(二次募集)合格発表(午後5時30分)
2月16日(金)	第1269回成医会例会(午後6時から2号館講堂)
2月18日(日)	医学科入学試験(一次試験)(筆記試験:午前10時 東京流通センター)
2月26日(月)	医学科入学試験合格発表(一次試験)(午後3時)
2月29日(木)	医学科入学試験(二次試験)(3日間　大学1号館)
3月1日(金)	医学科入学試験(二次試験)(3日間　大学1号館)
3月2日(土)	医学科入学試験(二次試験)(3日間　大学1号館)
3月7日(木)	第99回医学科卒業式・第29回看護学科卒業式 (午後1時30分より2号館講堂)
3月9日(土)	医学科入学試験合格発表(二次試験)(午後5時)
3月15日(土)	第118回医師国家試験合格発表 (午後2時)
3月19日(火)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程)修了式
3月22日(金)	第113回看護師・第110回保健師国家試験合格発表(午後2時)
4月2日(火)	令和6年度大学院入学式　(午後1時から大学1号館講堂)
4月4日(木)	令和6年度医学科・看護学科入学式　(午後2時から2号館講堂)
4月5日(金)	1年生　医学科・看護学科オリエンテーション (午前9時から看護学科1階大講堂)
4月9日(火)	医学科・看護学科新入生スタートアップ研修
4月22日(月)	看護学科新入生歓迎会(午後7時 京王プラザホテル)
4月26日(金)	医学科新入生歓迎会(午後6時30分東京プリンスホテル)
4月28日(日)	京都府立医科大学定期戦レセプション(京王プラザホテル)
5月1日(水)	創立記念日
5月20日(月)	第1回学位記授与式(午後2時30分から大学1号館講堂)
6月1日(土)	医学科保護者会春期総会 (午後3時から看護学科1階大講堂)
6月8日(土)	実験動物慰霊祭(午後3時から大学1号館講堂)
7月9日(火)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)大学院説明会
7月14日(日)	看護学科第1回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月4日(日)	看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月5日(月)	医学科第1回オープンキャンパス(2号館講堂)　午後1時
8月6日(火)	医学科第2回オープンキャンパス(2号館講堂)　午後1時
8月19日(月)	共用試験CBT(医学科4年生) 9:00～17:30 4階講堂他
8月20日(火)	共用試験CBT(医学科4年生) 9:00～17:30 4階講堂他
8月24日(土)	診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験(Pre-CC OSCE) 9:00～18:00 7階実習室・8階演習室他
9月7日(土)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)入学試験
9月19日(木)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)合格発表(午後1時)
9月20日(金)	診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE) 9:00～16:30 7階実習室・8階演習室他
9月21日(土)	診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE) 9:00～15:30 7階実習室・8階演習室他
9月30日(月)	慈恵医大夏季セミナー・東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム　大学1号館講堂
10月5日(土)	同窓会支部長会議・学術連絡会議(午後3時30分から2号館講堂)
10月10日(木)	第141回成医会総会
10月11日(金)	第141回成医会総会
10月12日(土)	大学休業日
10月19日(土)	卒後50周年記念大学招待懇親会(昭和49年卒)(午後5時から東京プリンスホテル)
10月21日(月)	第2回学位記授与式(午後2時30分から大学1号館講堂)
10月27日(日)	看護学科第3回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
10月28日(月)	第120回解剖諸霊位供養法会 (午後1時から増上寺)
11月2日(土)	医学科保護者会秋期総会 (午後3時40分から2号館講堂)
11月9日(土)	学祖墓参 (午後2時30分 2号館前集合)
12月25日(水)	教授・准教授懇談会 (午後6時からパレスホテル)

※2024年度は祝日と大学就業日の振り替えはなし(附属病院の診療体制に準ずる)

Topics 歴史 ●第2回

2024年7月、20年ぶりの新紙幣発行時期が近づいてまいりました。
1万円札は、「近代日本経済の父」と呼ばれる渋沢栄一へ変更されます。
3回にわたり、慈恵大学と渋沢栄一について、ご紹介いたします。

慈恵大学と渋沢栄一

学術情報センター 課長 **阿部 信一**

明治13年（1880年）に高木兼寛が英国留学から帰国し、有志共立東京病院を創立するにあたって、病院の運営は有志者の拠金（寄付金）で賄うことを決めました。明治15年（1882年）8月から始められた診療は、外来患者と入院患者で常時超満員でした。医療費が無料の慈善病院であったため、患者が増えれば増えるほど病院の運営は困難になり、明治16年（1883年）2月には再び拠金を募り、集まった多額の拠金の中には渋沢栄一の拠金も含まれていました。渋沢は、この頃からこのような医療事業に強い関心があったのです。

有志共立東京病院は、開院後しばらくはこのような有志による拠金と、婦人慈善会によるバザーの売上金の寄付などによって支えられていました。しかし、それでは安定した運営が難しいため、明治20年（1887年）4月より東京慈恵医院に改組され、皇后陛下を総裁に推戴し、幹事長には有栖川宮熾仁親王妃董子殿下が就かれ、維持費は皇室の恩賜金と有志者の拠金によることになりました。明治20年5月9日、皇后陛下をお迎えして開院式が挙行され、これには渋沢も招待されました。

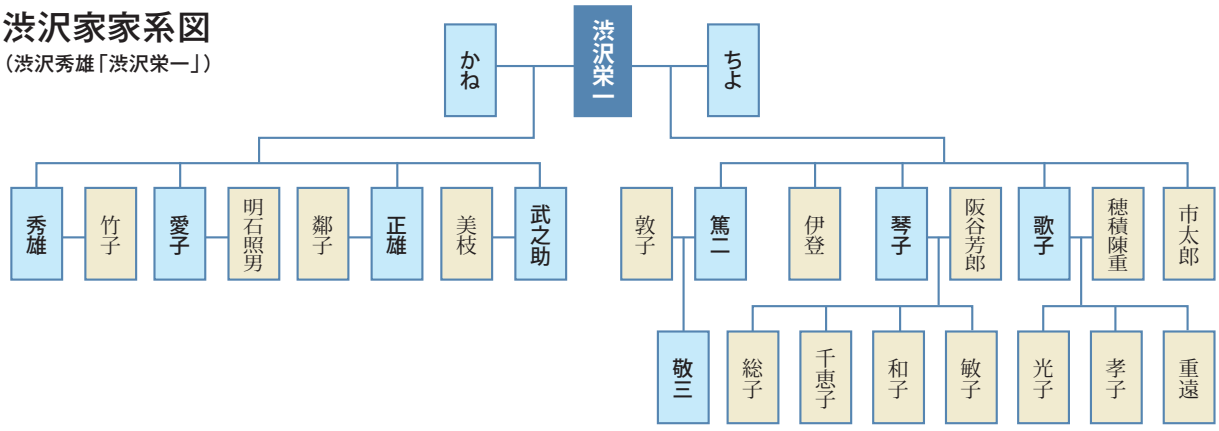
この改組によって、病院の運営は安定し、東京慈恵医院の平均年収は有志共立東京病院の頃の1.6倍に上昇しました。この頃の高額拠金者の中に渋沢の名前があるほか、婦人慈善会から改組した慈恵医院婦人会の拠金者の中には夫人の渋沢かね子や長女の穂積歌子の名前も見られます。明治29年（1896年）4月、幹事長が有栖川宮威仁親王妃慰子殿下に交代となると、同時に常置制に変更された幹事の一人に穂積歌子が選ばれました。その後、明治39年（1906年）には次女の阪谷琴子も幹事に選ばれています。慈恵医院婦人会に対する渋沢家の後援は年を追って熱心になっていきました。

東京慈恵医院への改組後も、診療を求める患者は増える一方で、資金不足のため、外来患者を制限せざるをえず、ベッド数の半分ないし三分の一しか入院させることができなくなっていきました。幹事長の威仁親王妃慰子殿下は、院長の高木に欧米での脚気に関する講演旅行の際に、各地の慈善病院の状況視察を依頼されるなど、医院の改革に熱心に取り組まれました。殿下から幹事の穂積歌子と阪谷琴子にも父上に医院拡張について相談するように依頼されると、すぐに渋沢から前向きな言葉が届けられ、さらにお声をかけるべき実業家、財界人について具体的な献策がありました。

明治40年（1907年）、渋沢は東京慈恵医院の相談役兼実業家団体募金委員長を仰せつけられ、同年7月、渋沢の尽力により社団法人東京慈恵会が発足すると、渋沢は副会長・財務主任に就任、同時に夫人のかね子、娘の穂積歌子と阪谷琴子は評議員となりました。渋沢は東京慈恵会の実質的な中心者として、病院と医学校の財政基盤を改善し、亡くなるまでの24年間、会の運営に献身しました。

東京慈恵会への渋沢家全体の寄与は大きいもので、一族の多くは後年まで毎月1円ないし5円をそれぞれの立場に応じて拠金していました。また、昭和6年（1931年）に渋沢が亡くなった後、孫の敬三が東京慈恵会の役員を継承し、終戦直後まで長く務めるなど、渋沢家はこぞって東京慈恵会を後援し、現在の慈恵大学の礎を築いたのです。

渋沢家家系図
（渋沢秀雄「渋沢栄一」）



【参考文献】・高木兼寛の医学：東京慈恵会医科大学の源流　松田誠　東京慈恵会医科大学　2007.12.

Notice

2023年5月から2023年12月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

大学公報

行事

●全国戦没者に対し、追悼の意を表する為、次の事を実施しました。

1．令和5年8月15日（火）

2．半旗を掲揚する

3．正午を期して黙とう　1 分間

●10月28日（土）午後1時より、芝増上寺に於いて第119回解剖諸霊位供養法会が行われた。

●11月11日（土）、理事長、学長をはじめ大学幹部教員、学生会代表、看護専門学校代表が学祖 高木兼寛先生の墓参を行った。

公示

●2023年5月1日

衛藤 謙氏に、附属4病院外科統括責任者を命ずる

●2023年7月1日

香取 信之准教授に、教授を命ずる

井上 雄講師に、准教授を命ずる

（特任期間　2023年7月1日～2026年3月31日）

照井 貴子講師に、准教授を命ずる

（特任期間　2023年7月1日～2026年3月31日）

●2023年8月1日

加藤 茂孝氏に、客員教授を委嘱する

山田 幸司講師に、准教授を命ずる

小高 文聰講師に、准教授を命ずる

寺尾 亨講師に、准教授を命ずる

雨宮 守正講師に、准教授を命ずる

●10月14日（土）は、本学創立者 高木兼寛先生の記念日に伴う休日につき休診とする

●2023年9月30日

産学連携講座　エクソソーム創薬研究講座は組織を解消する

●2023年10月1日

大学教育センター 医学キャリアサポート部門は医学教育部門に組織を再編する

香取 美津治講師に、准教授を命ずる

（特任期間　2023年10月1日～2026年3月31日）

岩田 尚子氏に、看護学科准教授を命ずる

●2023年11月1日

齋藤 三郎氏に、客員教授を委嘱する

神谷 紀輝氏に、客員教授を委嘱する

保谷 芳行准教授に、客員教授を委嘱する

大石 英則氏に、客員教授を委嘱する

宇和川 匡准教授に、教授を命ずる

藤岡 秀一准教授に、教授を命ずる

及川 恒一講師に、准教授を命ずる

藤田 雄講師に、准教授を命ずる

上田 和講師に、准教授を命ずる

●2023年12月1日

川瀬　和美特任教授に、教授を命ずる

木田　康太郎准教授に、教授を命ずる

大学公報

学事

● 大学院修了者

2023.7.26	齊藤 弥積
2023.9.13	田原 麻由　中西 智博　笠原 佑太
2023.9.27	山下 祐
2023.10.25	百瀬 まみ
2023.11.8	伊藤 景紀
2023.11.22	大越 裕人

● 学位論文通過者

2023.6.14	小澤 博嗣
2023.6.28	加納 瑠為
2023.9.13	亀田 慎也　光吉 優貴　福田 一郎
2023.9.27	相川 浩一　石川 佳孝
2023.11.8	相澤 隆徳　吉田 沙佑美　伊藤 健作
2023.11.22	塚田 尚子　黒田 高史

訃報

▶香川 草平元理事（昭和47年 本学卒）は、6月19日逝去されました。

▶小山 勉客員教授（救急医学講座）は、7月7日逝去されました。

▶赤塚 順一元教授（小児科学講座）は、7月20日逝去されました。

▶橋本 和弘名誉教授（心臓外科学講座）は、8月12日逝去されました。

▶山田 崇之助教（内科学講座（循環器内科））は、11月8日逝去されました。

▶馬詰 良樹名誉教授（分子生理学講座）は、11月17日逝去されました。

東京慈恵会公報

● 行　　事

2023年6月6日（火）　公益社団法人東京慈恵会理事会、評議員会、定時総会が開催された。

2023年11月14日（火）　公益社団法人 東京慈恵会 理事会が開催された。

院内表彰受賞者　(2023.6～2023.11)

	年月	部署	職種	受賞者	表彰理由
附属第三病院	2023.10	総合診療部	医師	藤田 照久	救急医療業務功労者表彰
	2023.10	救急部	看護師・事務員	看護師・事務員一同	
附属柏病院	2023.9	放射線部	診療放射線技師	櫻井 智生	「見える化スライド」最優秀デザイン賞

補助金・助成金

2023年度科学研究費助成事業　申請・採択状況一覧

種　目	新規申請件数	採択件数		
		新規採択件数	継続採択件数	採択件数合計
新学術領域研究（研究領域提案型）	0	0	1	1
学術変革領域研究（A）	0	0	1	1
学術変革領域研究（B）	0	0	1	1
基盤研究（A）	1	0	0	0
基盤研究（B）	12	1	23	24
基盤研究（C）	136	37	105	142
挑戦的研究（萌芽）	17	2	7	9
挑戦的研究（開拓）	3	0	0	0
若手研究	52	24	59	83
研究活動スタート支援	5	1	4	5
特別研究員奨励費	0	0	2	2
国際共同研究強化（A）	1	0	0	0
国際共同研究強化（B）	0	0	0	0
国際共同研究（帰国発展）	0	0	1	1
奨励研究	1	0	0	0
合計	228	65	204	269

注）①採択件数は、2023年12月1日現在の件数となり、転入者及び転出者は除く。　②繰越(補助金)、延長(基金)、学外分担者を除く。

プレスリリース (2023.6〜2023.11)

ホームページでもご覧いただけます
http://www.jikei.ac.jp/jikei/press.html

配信日	タイトル	発信者
2023 6/5	98%の日本人が「ビタミンD不足」に該当 国内初の基準値を公表、植物由来のビタミンDはほぼ検出されず	臨床検査医学講座　越智小枝講座担当教授 整形外科学講座　斎藤充講座担当教授
7/11	卵を食べた母親の授乳は新生児の卵アレルギーの発症に影響しない 国内の計10施設のランダム化比較試験で明らかに	分子疫学研究部　浦島充佳教授
7/20	慈恵医大、鹿大、宮大３大学単位互換協定に基づく学術交流： 看護学生交換・交流実習及び第４回高木兼寛記念シンポジウム	東京慈恵会医科大学　医学部看護学科
8/1	親子で学ぼう!がんってなんだ?2023 がん専門医が伝えたい「がん」のこと、 「健康といのちの大切さ」について親子と学ぶ機会を提供	学校法人慈恵大学
8/3	希少疾患の鼻副鼻腔乳頭腫を動画から判定する AI診断モデルの作成に世界で初めて成功 ―ベテラン耳鼻科医の診断精度77.6%を上回る84.3%を実現―	耳鼻咽喉科学講座　由井亮輔助教、高橋昌寛講師、鴻信義教授、 小島博己講座担当教授
8/4	コロナ禍で運動不足と過体重が「二極化」 ～高齢女性・中年男性・コロナ既感染者が高リスク～	臨床検査医学講座　越智小枝講座担当教授
8/18	「触覚」を有する手術支援ロボットシステム「Saroaサージカルシステム」 を用いた泌尿器科領域での初症例に成功	東京慈恵会医科大学附属柏病院（泌尿器科　三木淳診療部長）
8/25	安定同位体を用いた高比重リポ蛋白の新たな機能評価法に特許 ～臨床応用・実用化に期待される質的評価の開発～	臨床検査医学講座　吉田博教授（附属柏病院：病院長）
8/28	ビタミンDサプリでp53過剰発現に抗体を持つ消化管がん患者の再発死 亡リスクが73%も減少　治療後がんの再発や転移の予防が可能に	分子疫学研究部　浦島充佳教授
9/12	Nkx2-5など３つのシグナル因子が心内膜細胞のマクロファージと 心臓弁の形成を制御することが判明	細胞生理学講座　劉孟佳特任講師、中野敦教授
9/14	薬物療法に反応しない双極性障害のうつ状態に対し 反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を先進医療Bで実施中 ～新たなニューロモデュレーション治療の保険適用・ 薬事承認を目指す臨床研究～	精神医学講座　小高文聰准教授
9/27	かかりつけ医を持っている人・いない人の特徴 ～コロナ禍の全国住民調査で社会的要因による格差が明らかに～	総合医科学研究センター臨床疫学研究部 青木拓也講師、松島雅人教授
10/6	第一世代抗うつ薬のリゾホスファチジン酸受容体を介した 新たな薬理作用を解明 ～新しい治療薬の創薬標的として期待～	疼痛制御研究講座　宮野加奈子特任准教授、上園保仁特任教授
10/24	授乳中の母親は青魚・白身魚を積極的に摂取するべき ～乳幼児の脳の発達に重要なドコサヘキサエン酸の 血清レベルを上げられる～	分子疫学研究部　浦島充佳教授
10/24	骨格筋はわずかな温度の変化を敏感に感じて パフォーマンスを向上させる! ～ウォーミングアップの効果をタンパク質レベルで解明～	細胞生理学講座　福田紀男准教授
11/6	光免疫抗体を用いて標的を狙い打つ、光免疫療法の戦略手法を確立 ―がん、多剤耐性菌・新興ウイルス感染症など、 多様な疾患の克服に向けて―	内科学講座（消化器・肝臓内科）光永眞人講師 総合医科学研究センター基盤研究施設　岩瀬忠行教授
11/28	慈恵大学と島津製作所が共同で「骨の健康」関連の概念実証を実施 島津製作所は来春に医療機関向けの「骨の健康」関連事業を開始	総合健診・予防医学センター 加藤智弘教授、伊藤恭子准教授 臨床検査医学講座　越智小枝講座担当教授 整形外科学講座　斎藤充講座担当教授

メディア掲載一覧 (2023.6〜2023.12)

ホームページでもご覧いただけます
http://www.jikei.ac.jp/jikei/media.html

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
6月1日	医療 NEWS Qlifepro	新型コロナ後遺症の脳神経症状、鼻腔内でのスパイクタンパク質発現が関連ー慈恵大	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月2日	八重山毎日新聞	居場所としての「認知症カフェ」 対等な関係がポイント	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
6月2日	宮崎日日新聞	高岡・高木兼寛顕彰会講演 虐待 社会で対応 やしゃごの医師訴え	小児科 助教 高木 健
6月2日	毎日新聞 web、他	コロナウイルス、鼻に入り脳内で炎症 マウスで確認 慈恵医大	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月4日	北日本新聞	けさの人＝東南アジアでの医療支援のドキュメンタリー映画が公開された耳鼻科医、大村和弘さん	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
6月5日	47NEWS ほか	都内診断、98%ビタミン D 不足 食生活の変化影響か	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月5日	TBS THE TIME	日本人 98%がビタミン D 不足	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月5日	時事メディカル	98%の日本人が「ビタミン D 不足」に該当 国内初の基準値を公表、植物由来のビタミン D はほぼ検出されず―東京慈恵会医科大学	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月6日	日本テレビ news every	【解説】成人男女の 98%が「ビタミン D 不足」 多く含む食材は?…「日焼け止め」が生成の妨げにも	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月6日	ZakZak	日本人の９８%が「ビタミンD」不足 東京慈恵医大などチームが衝撃の結果 若い人ほど兆候、食生活の変化が原因か	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月6日	毎日新聞	鼻にコロナ入り倦怠感 慈恵医大など、マウスで確認	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月6日	毎日新聞 web	鼻にコロナ入り倦怠感 慈恵医大など、マウスで確認	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月6日	日経バイオテク	慈恵医大など、ビタミン D サプリメントでがん患者の死亡率を 12%抑制	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
6月6日	東京新聞、北海道新聞、沖縄タイムスほか	ビタミンD、98%が不足	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月7日	日本テレビ DAYDAY	成人 98%ビタミンD不足	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月7日	Start Home	大正製薬がお届けする大正健康ナビ、「膀胱炎」を公開!	泌尿器科学講座 講師 本田 真理子
6月7日	日本経済新聞	成人、ビタミンD不足 98% 慈恵医大など調査 食生活の変化 影響か	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月7日	毎日新聞	鼻にコロナ、脳の炎症で倦怠感 慈恵医大など、マウスで確認	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月7日	毎日新聞 web	鼻にコロナ、脳の炎症で倦怠感 慈恵医大など、マウスで確認	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月8日	FOODS CHANNEL	調査対象の 98%が「ビタミン D 不足」に該当 ― ビタミン D の血中濃度調査に全自動質量分析技術が貢献	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月8日	食品化学新聞 Web	東京慈恵会医科大学 98%がビタミン D 不足 5518 人を調査、LC-MS/MS で測定	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月8日	毎日新聞 Web	98%がビタミンD不足、骨や心臓にリスク 原因は食と日光?	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
6月8日	日本経済新聞 Web	島津製作所、調査対象の 98% が「ビタミン D 不足」に該当していたことを解明	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月8日	時事メディカル	居場所としての「認知症カフェ」～対等な関係がポイント（東京慈恵会医科大学 繁田雅弘主任教授）～	精神医学講座 教授 繁田 雅弘
6月9日	宮崎日日新聞	ひと INTERVIEW/ 東南アジアでの医療支援のドキュメンタリー映画が公開された耳鼻科医 / 大村和弘（おおむらかずひろ）さん	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
6月9日	日刊ゲンダイ	くも膜下出血を招く危険も 突然の頭痛や首の痛み 椎骨動脈解離かもしれない 高血圧の中高年男性は要注意	脳神経外科学講座 講座担当教授 村山 雄一
6月9日	日刊ゲンダイ	新型コロナ感染者ジワリ拡大 ドイツ研究「感染 2 年経っても苦しむ後遺症」に要注意	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月9日	日経バイオテク	島津製作所、調査対象の 98%が「ビタミン D 不足」に該当 ビタミン D の血中濃度調査に全自動質量分析技術が貢献	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月9日	テレビ朝日 スーパー J チャンネル	＜ J の追跡＞副鼻腔炎に 10 年悩む男性	耳鼻咽喉・頭頸部外科 副診療部長 鴻 信義
6月9日	教育家庭新聞 Web	港区と慈恵大学が包括的連携協力に関する基本協定を締結～健康増進事業や教育活動で協力	理事長 栗原 敏
6月10日	京都新聞	日本人 98%、ビタミン D 不足 東京で調査	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月10日	時事 .com	成人の９８%、ビタミンD不足 骨粗しょう症リスクも―慈恵医大	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月10日	東京新聞	健康づくり、がん教育 港区と慈恵医大が連携	理事長 栗原 敏
6月10日	日刊ゲンダイヘルスケア	突然の頭痛や首痛は…くも膜下出血を招く「椎骨動脈解離」かもしれない	脳神経外科学講座 講座担当教授 村山 雄一
6月10日	日刊ゲンダイ Digital	新型コロナ感染者ジワリ拡大…回復後も「2 年経っても苦しむ後遺症」には要注意	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月12日	ラジオ NIKKEI 第一放送	杏林シンポジア シリーズ「動脈硬化性疾患の予防を考える」	柏病院 院長 吉田 博
6月12日	夕刊フジ	ビタミン D の底力 がん死亡率を下げる 東京慈恵会医科大学 浦島充佳教授に聞く	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
6月13日	日本テレビ	DayDay. 成人 98%ビタミン D 不足 あなたは大丈夫?	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月13日	夕刊フジ	ビタミン D の底力 がん死亡率を下げる 東京慈恵会医科大学 浦島充佳教授に聞く（2）	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
6月13日	FNN プライムオンライン	東京在住の 98%が「ビタミン D」不足!?若い人ほど足りていない。骨粗鬆症や死亡リスクも…対策を研究者に聞いた	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月14日	夕刊フジ	ビタミン D の底力 がん死亡率を下げる 東京慈恵会医科大学 浦島充佳教授に聞く（3）	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
6月15日	夕刊フジ	ビタミン D の底力 がん死亡率を下げる 東京慈恵会医科大学 浦島充佳教授に聞く（4）	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
6月15日	@DIME	日本人の 98% が「ビタミン D 不足」に該当する可能性	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
6月15日	化学工業日報 WEB	島津製作所、調査対象の９８%がビタミンD不足確認	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月15日	化学工業日報	調査対象の 98%　ビタミンD不足　島津製作所、完全自動液体クロ活用	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
6月16日	夕刊フジ	ビタミンＤの底力　がん死亡率を下げる　東京慈恵会医科大学　浦島充佳教授に聞く（５）	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
6月19日	教育家庭新聞 Web	慈恵大が健康教育支援　がん教育、感染症対策などを強化～港区・教委と包括的連携	理事長 栗原 敏
6月19日	共同通信	鼻からコロナウイルス、脳炎症に　後遺症治療法開発へ、慈恵医大	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月20日	日本経済新聞	鼻でコロナ感染　脳炎に　慈恵医大実験　後遺症と関連　研究	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月20日	西日本新聞、南日本新聞、中部経済新聞ほか	鼻からウイルス、脳炎症に / コロナ後遺症 / 認知症薬での治療法開発へ	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月21日	週刊高齢者住宅新聞 online	オンライン診療、普及進まず「届出していない」医療機関７割　中医協	医療保険指導室 室長 鳥海 弥寿雄
6月22日	毎日新聞 Web	ほむほむ先生のアレルギー入門　卵黄のアレルギー＝堀向健太（東京慈恵会医科大葛飾医療センター小児科助教）	小児科 助教 堀向 健太
6月22日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門　堀向健太　東京慈恵会医科大葛飾医療センター　小児科助教	小児科 助教 堀向 健太
6月24日	京都新聞	鼻からコロナ、脳で炎症　マウスで確認　後遺症治療開発へ	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月24日	Yomi ドクター	日本人健診受診者の 98%がビタミンＤ不足	中央検査部 技師長補佐 宮本 博康
6月25日	日経産業新聞	鼻からコロナウイルス、脳炎症	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
6月26日	週刊プレイボーイ	最新研究でわかってきた”実はものすごい”栄養素「ビタミンＤ」大研究	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
6月28日	共同通信 PR ワイヤー	医師 330 名に聞いた!健康寿命に関わる「フレイル」調査―７割超が働き世代の「プレフレイル」増加を指摘!	柏病院 院長 吉田 博
6月29日	m3.com	慈恵医大が港区と協定締結、「win-win」の関係目指す	患者支援・医療連携 センター長 石川 智久
6月29日	プレジデントオンライン	再び流行の懸念…「予防接種率が下がる→感染が広がる」を繰り返してきた人類と麻疹の長い戦いの歴史	小児科 助教 堀向 健太
6月30日	河北新報	ビタミンＤサプリで、がん死亡率減	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
7月2日	毎日新聞医療プレミア	これ大事!いま知りたい医療ニュース　基本法成立で認知症対策はどう変わる	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
7月3日	全私学新聞	慈恵大学 港区役所等と包括的連携協力に関する基本協定を締結	理事長 栗原 敏
7月3日	OVO	健康寿命に関わる「フレイル」調査を実施　40～50 歳代など “働き世代”へも警鐘を鳴らす	柏病院 院長 吉田 博
7月4日	宮崎日日新聞	感染症や歯周病　解明期待　バイオフィルム”透視”　慈恵医大開発　流し台ぬるぬる汚れも	細菌学講座 准教授 杉本 真也　教授 金城 雄樹
7月5日	ダイヤモンド・オンライン	ビタミン D3 が「がん死」を抑制する?サプリの臨床試験が進行中	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
7月10日	日刊ゲンダイ	名医が答える　病気と体の悩み　繁田雅弘　精神科医　料理好きな認知症患者　家事を防ぐために何ができるのか	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
7月10日	いぬのきもち・初めて飼い主さんのいぬのきもち	2023 年 8 月号　犬のために何ができるのだろうか　東京慈恵会医科大学　慈恵犬セラピー	実験動物研究施設 施設長 嘉糠 洋陸　らんぷの会
7月11日	ラジオ NIKKEI	「小児科診療 Up-to-DATE」	小児科学講座 講座担当教授 大石 公彦
7月11日	週刊ポスト	「医心伝身」 胃が胸部に出る　食道裂孔ヘルニア　は腹壁固定で再発を防ぐ	外科学講座（上部消化管外科）講座担当教授 矢野 文章
7月11日	共同通信ほか	卵アレルギー、発症に影響なし　産後すぐの母親、加熱して少量	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
7月11日	時事メディカル	卵を食べた母親の授乳は新生児の卵アレルギーの発症に影響しない	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
7月11日	雑誌　健活手帖	夕刊フジ健康新聞「健活手帖」第 31 号　ビタミンＤがん死亡率を下げる	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
7月11日	夕刊フジ	健活手帖　安達純子　東京慈恵会科大学分子疫学研究部　浦島充佳教授に聞く　がんの死亡率下げる　ビタミンＤ　毎日習慣	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
7月12日	産経新聞、長崎新聞、東奥日報ほか	乳児の卵アレルギー発症影響なし　授乳中の母、加熱したもの摂取	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
7月12日	東京新聞、中日新聞	給食アレルギー対策　道半ば　学校、教委　情報共有に課題　調布市教委に「専門員」医師と連携　子ども個々に対応	附属第三病院 小児科
7月12日	日刊建設工業新聞	慈恵大学　10 月に新本館建設着手　慈恵医大附属第三病院改修	東京慈恵会医科大学附属第三病院
7月13日	時事メディカル	「慈恵医大リハ式　いくつになっても歩ける体をつくる秘訣教えます!」第２弾～市民公開講座を８月３０日に開催～	リハビリテーション科 講座担当教授 安保 雅博 准教授 中山 恭秀　栄養部 部長 濱 裕宣
7月13日	産経新聞 web	コロナ後遺症収束程遠く　５類移行で患者増も　苦悩の医療現場	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
7月14日	RiseMom	卵アレルギー、産後すぐの母親の卵摂取に関係なし	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
7月14日	産経新聞	コロナ後遺症　なお苦しみ　倦怠感・気分落ち込み・思考力低下　医師ら感染軽視に危機感	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤 一博
7月15日	北国新聞	98%がビタミンＤ不足　東京慈恵会医科大など	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月16日	テレ朝 news	痛い手術…驚きの器具で進化「副鼻腔炎」患者 200 万人　患者負担減らす最新 “鼻” 治療	耳鼻咽喉・頭頸部外科 副診療部長 鴻 信義
7月17日	週刊ポストセブン	胃が胸部に出る食道裂孔ヘルニアは腹壁固定で再発を防ぐ	外科学講座（上部消化管外科）講座担当教授 矢野 文章
7月17日	日刊ゲンダイヘルスケア	名医が答える病気と体の悩み　料理好きな認知症患者…火事を防ぐために何ができるのか	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
7月18日	中日新聞	この人　東南アジアで技術指導する耳鼻科医　大村和弘さん	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
7月18日	河北新報	健診の受診者　ビタミンD 98%が不足　慈恵医大調査	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月18日	日経メディカルオンライン	重症化予防やパンデミック下での入院医療の負荷軽減が期待　かかりつけ医機能が高い医師を持つ人ほど入院リスクが低下	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 講師 青木 拓也
7月18日	日刊ゲンダイ	これで目の不調が改善される!ドライアイ招く「マイボーム腺機能不全」初のガイドライン登場	眼科学講座 講師 田 聖花
7月18日	夕刊フジ	日本人の 98%に不足するビタミンD（1）東京慈恵会医科大学　越智小枝教授に聞く	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月19日	夕刊フジ	日本人の 98%に不足するビタミンD（2）東京慈恵会医科大学　越智小枝教授に聞く	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月19日	PRESIDENT ONLINE	このままでは日本人の骨がもろくなっていく…最新調査で判明した「98% の大人が不足している栄養素」	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月19日	日刊ゲンダイヘルスケア	「マイボーム腺機能不全」の適切な治療で目の不調が改善される 初のガイドライン登場	眼科学講座 講師 田 聖花
7月20日	医療介護ＣＢニュース	がん治療と仕事の両立支援強化へ　厚労省　化学療法外来へのシフトを報酬で後押し	医療保険指導室 室長 鳥海 弥寿雄
7月20日	夕刊フジ	日本人の 98%に不足するビタミンD（3）東京慈恵会医科大学　越智小枝教授に聞く	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月21日	夕刊フジ	日本人の 98%に不足するビタミンD（4）東京慈恵会医科大学　越智小枝教授に聞く	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月21日	週プレ NEWS	コロナを防ぎ、がん死亡率が減少！　＂実はものすごい＂栄養素「ビタミン D」大研究 !!	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月21日	読売新聞	「医療ルネサンス」卵巣がん（1）悪性なら広範囲で切除	産婦人科 診療部長 岡本 愛光
7月23日	夕刊フジ	日本人の 98%に不足するビタミンD（5）＝東京慈恵会医科大学　越智小枝教授に聞く	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
7月24日	読売新聞	花粉症緩和米　開発加速へ　原因物質組み込み	
7月25日	山口新聞	東南アジアで医療ボランティアの活動語る 医師の大村さん、防府で記録映画上映会とイベント	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村 和弘
7月26日	共同通信	医師の 7 割超が「働き世代のプレフレイル増加」指摘　日本生活習慣病予防協会が調査、警鐘鳴らす	柏病院 院長 吉田 博
7月27日	なかまぁる（朝日新聞）	認知症の“告知”は当たり前？　本人への伝え方とあるべきケアの形とは	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
7月27日	毎日新聞 web	認知症基本法が目指す社会とは	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
7月27日	毎日新聞	くらしナビ　認知症基本法が目指す社会とは	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
7月31日	ガスエネルギー新聞	原発支援どこまで　自由化との両立課題　エネ庁	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
8月1日	時事メディカル	『親子で学ぼう!がんってなんだ? 2023』～がん専門医が伝えたい「がん」のこと、「健康といのちの大切さ」について親子と学ぶ機会を提供～	港区立がん在宅緩和ケア支援センター（ういケアみなと）※本学受託事業
8月1日	PressWalker	がん専門医が伝えたい「がん」のこと、「健康といのちの大切さ」について親子と学ぶ機会を提供	港区立がん在宅緩和ケア支援センター（ういケアみなと）※本学受託事業
8月1日	日経メディカルオンライン	免疫療法と ADC の台頭で卵巣癌治療は新時代へ ICI の有効性については引き続き検証が必要	産婦人科 講座担当教授 岡本 愛光
8月3日	時事メディカル	希少疾患の鼻副鼻腔乳頭腫を動画から判定する AI 診断モデルの作成に世界で初めて成功～ベテラン耳鼻科医の診断精度 77.6% を上回る 84.3%を実現～	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔　講師 高橋 昌寛 教授 鴻 信義　講座担当教授 小島 博己
8月3日	BtoB プラットフォーム業界 ch	希少疾患の鼻副鼻腔乳頭腫を動画から判定する AI 診断モデルの作成に世界で初めて成功	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔　講師 高橋 昌寛 教授 鴻 信義　講座担当教授 小島 博己
8月4日	時事メディカル	コロナ禍で運動不足と過体重が「二極化」～高齢女性・中年男性・コロナ既感染者が高リスク～ 東京慈恵会医科大学、経済産業研究所	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
8月4日	PressWalker	コロナ禍で運動不足と過体重が「二極化」	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
8月4日	毎日新聞	医学研究助成、特別助成決まる	外科学講座（乳腺内分泌外科）助教 伏見 淳
8月7日	qlifepro.com	鼻副鼻腔乳頭腫の AI 診断モデル、内視鏡動画から耳鼻科医より精度高く判別－慈恵大ほか	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔　講師 高橋 昌寛 教授 鴻 信義　講座担当教授 小島 博己
8月8日	サンデー毎日	8/22 号 連載「セカンドステージ」	先端医療情報技術研究部／脳神経外科学講座 准教授 髙尾 洋之
8月10日	THE SANKEI NEWS	高齢女性と中年男性は要注意　日本人の運動習慣、コロナ禍を経て二極化	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
8月11日	宮崎日日新聞	高木兼寛ゆかりの 3 大学 / 看護学生が交流実習 / 宮崎市	医学部看護学科
8月11日	ABEMA TV	＂右手のない＂息子に「感謝と尊敬」美馬アンナが明かした家族への思い【四肢形成障害】	形成外科学講座 講座担当教授 宮脇 剛司
8月13日	朝日新聞 Digital	20 ～ 30 代の 1 割が悩んでいるアトピー　かゆみや湿疹を抑える新薬、続々と登場	皮膚科学講座 講師 石氏 陽三
8月14日	@DIME	運動習慣や BMI の平均値は微増だが標準偏差が拡大、コロナ禍によって日本人の運動不足と過体重は二極化傾向に	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
8月15日	週刊エコノミスト online	障害当事者となり切り開く　ＩＴ医療の「フロンティア」	先端医療情報技術研究部／脳神経外科学講座 准教授 髙尾 洋之
8月16日	朝日新聞	フレイル　40、50 代も増加	柏病院 院長 吉田 博
8月17日	CareNet	統合失調症薬物治療ガイドラインの順守と治療成績との関係～ EGUIDE プロジェクト	精神医学講座 准教授 小高 文聰
8月17日	毎日新聞 Web	ほむほむ先生のアレルギー入門　海のクラゲと納豆で＝堀向健太（東京慈恵会医科大葛飾医療センター小児科助教）	小児科 助教 堀向 健太
8月17日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門　堀向健太　東京慈恵会医科大葛飾医療センター　小児科助教	小児科 助教 堀向 健太
8月18日	時事メディカル、他	「触覚」を有する手術支援ロボットシステム「Saroa サージカルシステム」を用いた泌尿器科領域での初症例に成功	柏病院泌尿器科 診療部長 三木 淳
8月19日	読売新聞	慢性腎臓病で腎性貧血　飲み薬登場 注射の負担減	腎臓高血圧内科 講師 丸山 之雄
8月21日	cadenza	病に倒れた医療界 IT 推進の第一人者、障がい者となり感じたアクセシビリティの必要性と医療 DX の課題とは	先端医療情報技術研究部／脳神経外科学講座 准教授 髙尾洋之
8月21日	日経バイオテク	リバーフィールド、「Saroa サージカルシステム」を用いた泌尿器科領域における初症例が東京慈恵会医科大学附属柏病院にて実施	柏病院泌尿器科 診療部長 三木 淳
8月22日	Ｊ：ＣＯＭ	「地元応援つながる News 港・新宿・中野・杉並」夏休み親子企画「がんってなんだ?」	港区立がん在宅緩和ケア支援センター ういケアみなと
8月22日	マイナビニュース	鼻副鼻腔乳頭腫に関する高精度 AI 診断モデルの作成に慈恵医大などが成功	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔　講師 高橋 昌寛 教授 鴻 信義　講座担当教授 小島 博己

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
8月23日	北国新聞	はつらつ健康ライフ　AED による心肺蘇生　ためらわず使用を	救急部 診療部長 武田 聡
8月23日	日刊工業新聞	泌尿器に手術ロボ	柏病院泌尿器科 診療部長 三木 淳
8月24日	富山新聞	AED による心肺蘇生　ためらわず使用を	救急部 診療部長 武田 聡
8月25日	presswalker	安定同位体を用いた高比重リポ蛋白の新たな機能評価法に特許	臨床検査医学講座 教授 附属柏病院 院長 吉田 博
8月25日	時事メディカル	安定同位体を用いた高比重リポ蛋白の新たな機能評価法に特許 ～臨床応用・実用化に期待される質的評価の開発～ 東京慈恵会医科大学	臨床検査医学講座 教授 附属柏病院 院長 吉田 博
8月25日	化学工業日報	リバーフィールドの手術支援ロボ、泌尿器科で初症例成功	柏病院泌尿器科
8月25日	日本経済新聞	鼻の腫瘍判別する AI	耳鼻咽喉科学講座
8月25日	日本経済新聞 Web	鼻の腫瘍判別する AI	耳鼻咽喉科学講座
8月25日	日本経済新聞 Web	鼻の病気を AI 判別、医師超える精度も　慈恵医大など	耳鼻咽喉科学講座
8月27日	朝日新聞 DIGITAL	子どものアトピー治療、何が変わった？　医師に聞く新薬と最新の常識	皮膚科学講座 講師 石氏 陽三
8月28日	時事メディカル	ビタミン D サプリで p53 過剰発現に抗体を持つ消化管がん患者の再発死亡リスクが 73% も減少 ～治療後がんの再発や転移の予防が可能に～	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
8月28日	プレスウォーカー	ビタミン D サプリで p53 過剰発現に抗体を持つ消化管がん患者の再発死亡リスクが 73% も減少	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
8月28日	日本経済新聞 web	慈恵医大、ビタミン D サプリで p53 過剰発現に抗体を持つ消化管がん患者の再発死亡リスクが 73% 減少していたことを明らかに	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
8月28日	Care Net	ビタミン D、p53 免疫反応性の消化管がんの再発 / 死亡を抑制	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
8月29日	デイリー新潮 WEB	認知症に希望の新薬！　診断を受けた家族に「絶対にやってはいけないこと」とは？　臨床の最前線に立つ医師が徹底解説	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
8月29日	MEDIAN TALKS	希少疾患「鼻副鼻腔乳頭腫」を判定する AI 診断モデル開発、世界初　熟練医の診断精度を上回る 84.3%達成	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔　講師 高橋 昌寛 教授 鴻 信義　講座担当教授 小島 博己
8月30日	日本経済新聞 web	慈恵医大など、鼻の希少疾患に AI 動画診断　他疾患にも	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔　講師 高橋 昌寛 教授 鴻 信義　講座担当教授 小島 博己
8月31日	BS11「報道ライブ インサイド OUT」	残暑疲れにご用心”帯状疱疹”の怖さと予防法とは？	皮膚科学講座 非常勤講師 松尾 光馬
8月31日	NHK ラジオ　N らじ	アルツハイマー病の新しい治療薬について	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
9月1日	経営情報誌オムニマネジメント	このテクノロジーと付き合っていく～令和時代の歩き方	先端医療情報技術研究部／脳神経外科学講座 准教授 髙尾洋之
9月1日	NEWS ポストセブン	認知症の進行スピードは 30 年前の 3 分の 1 に 症状を悪化させる周囲の“NG 行動”と「介護のコツ」	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
9月2日	YomiDr	「疲れ」「息切れ」「めまい」・・・慢性腎臓病で起こる腎性貧血　飲み薬が続々登場	腎臓高血圧内科 講師 丸山 之雄
9月4~6日	NHK E テレ	きょうの健康「動脈硬化　あなたの対策のポイントは?」	臨床検査医学講座 教授 附属柏病院 院長 吉田 博
9月4日	朝日新聞	患者を生きる　大人のアトピー性皮膚炎　6　情報編	皮膚科学講座 講師 石氏 陽三
9月7日	河北新報	AED/ ためらわず使って /1 分遅れるごとに救命率 7 ～ 10%低下 / 音声指示に従って対応	救急部 診療部長 武田 聡
9月10日	BS 朝日	草野仁の名医が寄りそう!カラダ若返りＴＶ　行動変容外来のレコーディングダイエット	晴海トリトンクリニック 所長 横山 啓太郎
9月12日	時事メディカル	Nkx2-5 など 3 つのシグナル因子が心内膜細胞のマクロファージと心臓弁の形成を制御することが判明～東京慈恵会医科大学	細胞生理学講座 特任講師 劉 孟佳　教授 中野 敦
9月12日	プレスウォーカー	Nkx2-5 など 3 つのシグナル因子が心内膜細胞のマクロファージと心臓弁の形成を制御することが判明	細胞生理学講座 特任講師 劉 孟佳　教授 中野 敦
9月12日	日経バイオテク	東京慈恵会医科大、NKx2-5 など 3 つのシグナル因子が心内膜細胞のマクロファージと心臓弁の形成を制御することが判明	細胞生理学講座 特任講師 劉 孟佳　教授 中野 敦
9月12日	夕刊フジ	健活手帖　安達純子　9 月は防災月間　命守る防災運動習慣　災害公衆衛生の専門家　東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座　越智小枝教授に聞く	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
9月13日	日経産業新聞	慈恵医大　鼻の疾患 AI で判別	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔　講師 高橋 昌寛 教授 鴻 信義　講座担当教授 小島 博己
9月14日	プレスウォーカー	薬物療法に反応しない双極性障害のうつ状態に対し 反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を先進医療 B で実施中	精神医学講座 准教授 小高 文聰
9月14日	時事メディカル	薬物療法に反応しない双極性障害のうつ状態に対し反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を先進医療 B で実施中～新たなニューロモデュレーション治療の保険適用・薬事承認を目指す臨床研究～	精神医学講座 准教授 小高 文聰
9月14日	QLife PRO	心臓弁の正常な形態形成に心内膜細胞から分化したマクロファージが必須と判明－慈恵大	細胞生理学講座 特任講師 劉 孟佳　教授 中野 敦
9月15日	河北新報	ぼうこう炎　慢性化は要注意　癌や糖尿病原因のおそれも	泌尿器科学講座 講師 本田 真理子
9月15日	いぬのきもち web Magazine	患者さんの心を癒す“セラピードッグ”になった元保護犬たち	実験動物研究施設 施設長 嘉糠 洋陸
9月15日	日経バイオテク	慶應義塾大、薬物療法に反応しない双極性障害のうつ状態に対し反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を先進医療 B で実施中～新たなニューロモデュレーション治療の保険適用・薬事承認を目指す臨床研究～	精神医学講座 准教授 小高 文聰
9月17日	十勝毎日新聞電子版	健康　AED による心肺蘇生　ためらわず使用を	救急部 診療部長 武田 聡
9月18日	NHK BS プレミアム	医師が教える!極上健康旅　いざ鎌倉で糖尿病対策（再放送）	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村 理明
9月19日	いぬのきもち web Magazine	セラピードッグとして活躍する慈恵犬たちの活動を支える「らんぷの会」の存在	実験動物研究施設 施設長 嘉糠 洋陸
9月21日	北国新聞	健康＆医療　繰り返すぼうこう炎　がんや糖尿病も原因に	泌尿器科学講座 講師 本田 真理子
9月21日	河北新報	運動習慣と BMI が「二極化」	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
9月21日	タウンニュース	認知症を知る 当事者と家族 一体的サポート 平塚市内の 2 施設を紹介〈平塚市〉	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
9月21日	保険毎日新聞	損保協会　名合屋で交通事故医療の研究助成報告会　妊婦の特性と交通外傷解説	産婦人科学講座 教授 佐村 修
9月25日	東洋経済オンライン	男性 20 人に 1 人・女性 500 人に 1 人が色弱、学校でできる「困らない環境づくり」	解剖学講座 講座担当教授 岡部 正隆
9月26日	日本経済新聞 WEB ほか	富士通と iSurgery　東京慈恵会医科大学整形外科学講座と骨の健康増進プロジェクトを開始	整形外科学講座
9月26日	マイナビ TECH ほか	富士通 ×iSurgery、胸部 X 線写真を活用した「骨の健康増進プロジェクト」	整形外科学講座
9月27日	集英社オンライン	がん細胞がぶちぶち壊れていく…人類の希望「光免疫療法」発見の瞬間「がんを光らせる実験のはずがまさかの結末に」	消化器・肝臓内科 講師 光永 眞人
9月27日	プレスウォーカー	かかりつけ医を持っている人・いない人の特徴	臨床疫学研究部 講師 青木 拓也　教授 松島 雅人
9月28日	マイナビニュース他	「かかりつけ医」を持っている人・いない人の特徴は？	臨床疫学研究部 講師 青木 拓也　教授 松島 雅人
9月29日	テレビ東京	よじごじ Days「食欲の秋に知って得する“食”の新常識!」	栄養部 赤石 定典
10月1日	産経新聞	働く世代でもフレイル予備軍　40 代以上急増	柏病院 院長 吉田 博
10月2日	みんなの家庭の医学 web 版	働き世代のプレフレイルの増加　虚弱の若年齢化	柏病院 院長 吉田 博
10月2日	朝日 AERA	10 月 9 日号　健康ノウハウ「中年フレイル　睡眠で予防する」	柏病院 院長 吉田 博
10月2日	ＮＨＫラジオ第１放送	全国マイあさ「健康ライフ」	柏病院 院長 吉田 博
10月3日	ラジオ NIKKEI	ドクターズサロン　「重症の副鼻腔炎治療」	耳鼻咽喉科学講座 講師 森 恵莉
10月4日	朝日新聞	東京慈恵会医科大　皮膚科医　石氏陽三さんに聞く　子のアトピー治療薬　広がる選択肢	皮膚科学講座 講師 石氏 陽三
10月4日	日経メディカル	トレンド◎　Aβ蓄積などの脳病理があるのに認知機能は正常	第三病院 精神神経科 診療部長 布村 明彦
10月4日	NEWSWICH	骨粗しょう症を予防、富士通などが胸部 X 線活用で骨の状態評価	整形外科学講座
10月6日	十勝毎日新聞電子版	【健康】ビタミンＤサプリでがん死亡率減	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
10月6日	時事メディカル	第一世代抗うつ薬のリゾホスファチジン酸受容体を介した新たな薬理作用を解明 ～新しい治療薬の創薬標的として期待～	疼痛制御研究講座 特任准教授 宮野加奈子 特任教授 上園 保仁
10月6日	presswalker	第一世代抗うつ薬のリゾホスファチジン酸受容体を介した新たな薬理作用を解明 ～新しい治療薬の創薬標的として期待～	疼痛制御研究講座 特任准教授 宮野加奈子 特任教授 上園 保仁
10月6日	aeradot.	ラーメンやおにぎり、“糖質多い食事”に警鐘　40 ～ 50 代に「フレイル」増えた理由	柏病院 院長 吉田 博
10月7日	サライ jp	「認知症かも?」と思ったら確認すべきこと【151 人の名医・介護プロが教える認知症大全】	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
10月7日	十勝毎日新聞電子版	【健康】繰り返すぼうこう炎　原因にがんや糖尿病も	泌尿器科学講座 講師 本田 真理子
10月8日	神戸新聞	繰り返すぼうこう炎に要注意　がんや結石、糖尿病の場合も	泌尿器科学講座 講師 本田 真理子
10月10日	いぬのきもち web Magazine	セラピー犬として活躍する慈恵犬たち　外来病棟や小児科病棟での様子とは	実験動物研究施設 施設長 嘉糠 洋陸
10月10日	NHK	クローズアップ現代「3 人に 1 人が激痛!?増加する帯状疱疹」	皮膚科学講座 非常勤講師 松尾 光馬
10月12日	毎日新聞 Web	ほむほむ先生のアレルギー入門　調理用小麦粉の保存＝堀向健太（東京慈恵会医科大葛飾医療センター小児科助教）	小児科 助教 堀向 健太
10月12日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門　堀向健太　東京慈恵会医科大葛飾医療センター　小児科助教	小児科 助教 堀向 健太
10月16日	いぬのきもち NEWS	セラピー犬として活躍する慈恵犬たちの病棟での様子とは	実験動物研究施設 施設長 嘉糠 洋陸
10月17日	デイリー新潮 WEB	本当は怖い「サウナで整う」の正体　特に注意が必要な人は？　医師が語る実体験「数秒間、脈が止まって“ヤバい”と」	麻酔科学講座 教授 坪川 恒久
10月17日	日経バイオテク	トレンド◎　Aβ蓄積などの脳病理があるのに認知機能は正常　東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科教授の布村明彦氏に聞く	第三病院 精神神経科 診療部長 布村 明彦
10月18日	NHK E テレ	きょうの健康「急性白血病」	内科学講座（腫瘍・血液内科）講座担当教授 矢野 真吾
10月19日	幻冬舎ゴールドオンライン	最初は“数 mm 程度の小さな皮疹”だが…慢性的な皮膚病「乾癬」の種類	皮膚科学講座 講座担当教授 朝比奈 昭彦
10月19日	時事メディカル	高頻度・多量の飲酒で緑内障リスク上昇	眼科学講座 佐野 圭
10月19日	夕刊フジ	手術革新!触覚ロボットの最新事情 (4)＝安達純子　東京慈恵会医科大学附属柏病院　三木淳診療部長	柏病院泌尿器科 診療部長 三木 淳
10月20日	夕刊フジ	手術革新!触覚ロボットの最新事情 (5)＝安達純子　東京慈恵会医科大学附属柏病院　三木淳診療部長	柏病院泌尿器科 診療部長 三木 淳
10月22日	山梨日日新聞	元気 甲州人 東京慈恵医大救急医学講座主任教授武田聡さん　心肺蘇生普及活動に力	救急医学講座 講座担当教授 武田 聡
10月24日	時事メディカル	授乳中の母親は青魚・白身魚を積極的に摂取するべき ～乳幼児の脳の発達に重要なドコサヘキサエン酸の血清レベルを上げられる～	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
10月24日	時事メディカル	骨格筋はわずかな温度の変化を敏感に感じてパフォーマンスを向上させる! ～ウォーミングアップの効果をタンパク質レベルで解明～	細胞生理学講座 准教授 福田 紀男
10月24日	presswalker	授乳中の母親は青魚・白身魚を積極的に摂取するべき	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
10月24日	presswalker	骨格筋はわずかな温度の変化を敏感に感じてパフォーマンスを向上させる!	細胞生理学講座 准教授 福田 紀男
10月26日	日刊工業新聞	準備運動の効果解明　骨格筋　温度変化に敏感　東京慈恵会医科大学など	細胞生理学講座 准教授 福田 紀男
10月27日	日本経済新聞	ブタの腎臓、ヒト移植近づく	腎臓高血圧内科 講座担当教授 横尾 隆
10月28日	サライ jp	「妄想・徘徊」の具体的な対処方法とは?【151 人の名医・介護プロが教える認知症大全】	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
10月28日	サライ jp	気づきにくい「若年性認知症」と、認知症とは違う「MCI（軽度認知障害）」【151 人の名医・介護プロが教える認知症大全】	精神医学講座 講座担当教授 繁田 雅弘
10月29日	十勝毎日新聞電子版	【健康】９８％がビタミンＤ不足	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
10月30日	夕刊フジ	悪玉善玉 コレステロールの新常識　東京慈恵会医科大学附属柏病院　吉田博病院長に聞く（1）	柏病院 院長 吉田 博
10月30日	医学界新聞	座談会 かかりつけ医機能の実装に向けて	臨床疫学研究部 講師 青木 拓也
10月31日	夕刊フジ	悪玉善玉 コレステロールの新常識　東京慈恵会医科大学附属柏病院　吉田博病院長に聞く（2）	柏病院 院長 吉田 博
11月1日	夕刊フジ	悪玉善玉 コレステロールの新常識　東京慈恵会医科大学附属柏病院　吉田博病院長に聞く（3）	柏病院 院長 吉田 博
11月1日	時事メディカル	ストレスによる脳の変化が原因か～「痛覚変調性疼痛」（東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター　加藤総夫教授）～	神経科学研究部 教授 加藤 総夫
11月2日	北国新聞	＜健康＆医療＞ストレスで脳の変化原因か　原因不明の慢性通「痛覚変調性疼痛」	神経科学研究部 教授 加藤 総夫
11月2日	夕刊フジ	悪玉善玉 コレステロールの新常識　東京慈恵会医科大学附属柏病院　吉田博病院長に聞く（4）	柏病院 院長 吉田 博
11月3日	夕刊フジ	悪玉善玉 コレステロールの新常識　東京慈恵会医科大学附属柏病院　吉田博病院長に聞く（5）	柏病院 院長 吉田 博
11月6日	日本経済新聞 Web	慈恵医大・横浜市大・米国国立がん研究所、光免疫抗体を用いて標的を狙い打つ光免疫療法の戦略手法を確立	内科学講座（消化器・肝臓内科）講師 光永 眞人 基盤研究施設 教授 岩瀬 忠行
11月6日	時事メディカル	光免疫抗体を用いて標的を狙い打つ、光免疫療法の戦略手法確立 ～がん、多剤耐性菌・新興ウイルス感染症など多様な疾患の克服に向けて～ 東京慈恵会医科大学、横浜市立大学、米国国立がん研究所	内科学講座（消化器・肝臓内科）講師 光永 眞人 基盤研究施設 教授 岩瀬 忠行
11月6日	Digtal PR Platform	光免疫抗体を用いて標的を狙い打つ、光免疫療法の戦略手法を確立	内科学講座（消化器・肝臓内科）講師 光永 眞人 基盤研究施設 教授 岩瀬 忠行
11月8日	いぬのきもち web マガジン	セラピー犬として活躍する慈恵犬たち　外来病棟や小児科病棟での様子とは	実験動物研究施設 施設長 嘉糠　洋陸
11月8日	マイナビニュース	慈恵医大など、がん細胞や病原体だけを狙い撃てる「光免疫療治療法」を確立	内科学講座（消化器・肝臓内科）講師 光永 眞人 基盤研究施設 教授 岩瀬 忠行
11月9日	ラジオ日経	ドクターハート＆ストーリー『慈恵大学附属病院 ストローク・コーディネート・ナース制度について』	内科学講座（脳神経内科）講座担当教授 井口 保之
11月14日	読売新聞	医なび　飲み薬登場　注射の負担減　慢性腎臓病で腎性貧血　たんぱく質の分解防ぐ　なぜ起きる?	腎臓高血圧内科 講師 丸山 之雄
11月16日	ラジオ日経	ドクターハート＆ストーリー『慈恵大学附属病院 ストローク・コーディネート・ナース制度について』	看護部 師長 川上 恵美
11月18日	現代ビジネス	【整形外科編】医師たちが本気で推薦する「最強の病院」…一流アスリートも通う!「腰や膝、脊椎の痛み」「リウマチ」を親身になって治してくれる名医たち	東京慈恵会医科大学附属病院　整形外科
11月19日	読売新聞	サイエンス Report 福島原発事故 13 年目の報告 放射線の健康影響　誤解どう改善	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
11月20日	日刊ゲンダイ	「Medical Library」もっと知りたい生活習慣のコト	糖尿病代謝内分泌内科 准教授 藤本 啓
11月20日	時事通信社	ＡＥＤによる心肺蘇生 ～ためらわず使用を（東京慈恵会医科大学付属病院　武田聡診療部長）～	救急部 診療部長 武田 聡
11月24日	婦人公論 jp	がん細胞が、焼いた餅のように膨張して破裂する…ほったらかしにしていた実験から見つかった「光免疫療法」。その仕組みとは?	消化器・肝臓内科 講師 光永 眞人
11月25日	読売新聞	ビタミンD　がん死リスク減　消化管系　悪化しやすいタイプ	分子疫学研究部 教授 浦島 充佳
11月26日	TBS テレビ	「健康カプセル! ゲンキの時間」　腎機能低下を早期発見!腎臓の数値「eGFR」を徹底調査	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾 隆
11月26日	yahoo ニュース	体内で「腎臓」を育てる!?再生医療の最先端 ...「eGFR」ってなに?腎臓病の真実	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾 隆
11月27日	神戸新聞	鼻副鼻腔乳頭腫　鼻の中に腫瘍　良性だががん化するタイプも	耳鼻咽喉科学講座助教 由井 亮輔
11月28日	日経バイオテク	島津製作所、慈恵大と共同で「骨の健康」関連の概念実証を実施　島津製作所は来春に医療機関向けの「骨の健康」関連事業を開始	総合健診・予防医学センター 教授 加藤 智弘　准教授 伊藤 恭子　臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
11月28日	毎日小学生新聞	色の見え方の違いを知ろう	解剖学講座 教授 岡部 正隆
11月28日	BtoB プラットフォーム業界 ch	慈恵大学と島津製作所が共同で「骨の健康」関連の概念実証を実施 - 島津製作所は来春に医療機関向けの「骨の健康」関連事業を開始 -	総合健診・予防医学センター 教授 加藤 智弘　准教授 伊藤 恭子　臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
11月28日	PRESS WALKER	慈恵大学と島津製作所が共同で「骨の健康」関連の概念実証を実施	総合健診・予防医学センター 教授 加藤 智弘　准教授 伊藤 恭子　臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
11月28日	日本経済新聞 Web	島津製作所と慈恵大、「骨の健康」関連の概念実証を実施	総合健診・予防医学センター 教授 加藤 智弘　准教授 伊藤 恭子　臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
11月28日	時事メディカル	慈恵大学と島津製作所が共同で「骨の健康」関連の概念実証を実施～島津製作所は来春に医療機関向けの「骨の健康」関連事業を開始～	総合健診・予防医学センター 教授 加藤 智弘　准教授 伊藤 恭子　臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝 整形外科学講座 講座担当教授 斎藤 充
11月29日	化学工業日報	骨粗しょう症の事業を来春開始　島津製作所	総合健診・予防医学センター
12月1日	ミクス online	インタビュー～ MR の存在意義は”情報収集”にあり～東京慈恵会医科大学附属病院 薬剤部 部長 川久保　孝 氏	附属病院（本院）薬剤部部長 川久保 孝
12月1日	医薬情報・マーケティング雑誌 ミクス 12 月号	インタビュー～ MR の存在意義は”情報収集”にあり～	附属病院（本院）薬剤部部長 川久保 孝
12月5日	時事メディカル	行動タスクに応じて正負の情動価を調節する経路を発見 ～内的・外的環境による情動価の変容を担う中枢基盤の解明に期待―東京慈恵会医科大学～	臨床医学研究所 助教 永嶋 宇　教授 渡部 文子
12月5日	PressWalker	行動タスクに応じて正負の情動価を調節する経路を発見	臨床医学研究所 助教 永嶋 宇　教授 渡部 文子
12月7日	毎日新聞 web	ほむほむ先生のアレルギー入門 エピペンは 2 本セットで＝堀向健太（東京慈恵会医科大葛飾医療センター小児科助教）	小児科 助教 堀向 健太
12月7日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 エピペンは 2 本セットで＝堀向健太（東京慈恵会医科大葛飾医療センター小児科助教）	小児科 助教 堀向 健太
12月8日	北国新聞	健康＆医療　AI 診断、実用化へ　がん化するタイプも　初期の自覚乏しい鼻副鼻腔乳頭腫	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔
12月9日	日本経済新聞	カラダづくり　心房細動 脳梗塞の発生リスク 5 倍	循環器内科 教授 山根 禎一

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
12月10日	十勝毎日新聞電子版	【健康】がん化するタイプも　鼻副鼻腔乳頭腫	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井 亮輔
12月10日	時事メディカル	繰り返すぼうこう炎～原因にがんや糖尿病も（東京慈恵会医科大学付属病院　本田真理子講師）～	泌尿器科学講座 講師 本田 真理子
12月14日	Press Walker	脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見　旨味と甘味の味覚の起源に迫る	解剖学講座 講座担当教授 岡部 正隆
12月14日	時事メディカル	脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見～旨味と甘味の味覚の起源に迫る～近畿大学、明治大学、東京慈恵会医科大学、情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所、東京大学	解剖学講座 講座担当教授 岡部 正隆
12月14日	Care Net	レビー小体型認知症とアルツハイマー病の鑑別における CIS の診断精度	内科学講座（脳神経内科） 助教 浅原 有揮
12月14日	十勝毎日新聞電子版	【健康】運動習慣とＢＭＩが「二極化」コロナの影響で	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智 小枝
12月14日	NEWS CAST	脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見　旨味と甘味の味覚の起源に迫る	解剖学講座 講座担当教授 岡部 正隆
12月14日	日本経済新聞web	近畿大・明大・慈恵医大・国立遺伝学研・東大、脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見	解剖学講座 講座担当教授 岡部 正隆
12月15日	PressWalker	嫌悪学習に伴い扁桃体の 2 種類の興奮性細胞が異なる抑制性制御を受けることが判明	臨床医学研究所 特任教授 森島 美絵子 医学生 松村 颯大　教授 渡部 文子

生涯学習・公開セミナー等

慈恵医大生涯学習センター

慈恵医大 生涯学習セミナー

月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

月例セミナー

● 開催日時　第2土曜日(4月、6月、11月)
16:00~18:00
● 場所　附属病院(本院)
中央棟8階会議室

第266回

月　日	2024年4月13日(土)
時　間	16:00~17:00
テーマ	呼吸器疾患に使う吸入薬の使い方
演　者	呼吸器内科 沼田 尊功
時　間	17:00~18:00
テーマ	電子タバコと呼吸器疾患
演　者	呼吸器内科 村松 弘康

第267回

月　日	2024年6月8日(土)
時　間	16:00~17:00
テーマ	片頭痛の最新治療
演　者	総合診療部 常喜 達裕
時　間	17:00~18:00
テーマ	神経難病の新薬について
演　者	脳神経内科 梅原 淳

第268回

月　日	2024年11月9日(土)
時　間	16:00~17:00
テーマ	日常診療における発疹の見方 ~乾癬を含めて~
演　者	皮膚科 梅澤 慶紀
時　間	17:00~18:00
テーマ	アトピー性皮膚炎の最新治療
演　者	皮膚科 出来尾 格

注)一部変更することもあります。

第44回慈恵医大夏季セミナー

東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラムは2024年9月に開催を予定しています。

お問合せ先:生涯学習センター
TEL：03-3433-1111(大代表)内線2634

慈恵医師会

慈恵医師会産業医研修会

2024年5月26日(日)に開催いたします。
〈主催〉慈恵医師会　〈共催〉東京都医師会

お問合せ先:慈恵医師会
TEL：03-3433-1111(大代表)内線2636

附属病院(本院)

医療連携フォーラム

● 日時　2024年3月14日(木)
19:00~20:30
● テーマ　5年先の医療と介護を一緒に予測してみませんか?
—第8次医療計画と地域医療の将来—
● 会場　ハイブリッド開催
(会場・オンライン)

講演1　「東京都医師会から見た地域医療の課題
~TMA近未来医療会議の議論を踏まえて ~」
東京都医師会　理事
鳥居内科クリニック　院長
鳥居 明

講演2　「令和6年度診療報酬改定を踏まえた、地域完結型の医療・介護提供体制の構築について」
一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構
政策推進部　副部長(企画戦略担当)
(元 厚生労働省健康局長
千葉県病院事業管理者)
矢島 鉄也

2023年度　みんなの健康教室
今こそ始めよう!　生活週間革命!

(共催：NHK 放送博物館・東京慈恵会医科大学)
● 開催時間　14:00~15:15(開場13:30)
● 場所　NHK放送博物館
愛宕山8Kシアター

第6回

月日	2024年3月16日(土)
テーマ	頻尿と尿失禁の原因と治療
演者	泌尿器科五十嵐 太郎 先生(助教／診療医員)
テーマ	トイレ習慣と生活
演者	看護部江川 安紀子看護師 皮膚排泄ケア認定看護師

お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室
TEL:03-5400-1202(直通)

第三病院

慈恵ガジュまる教室
「健康を向上させるマウスケア」
~よりよい口腔内環境へ~

● 日時　2024年2月24日(土)
14:00~15:00
● 内容　マウスケアの効果的な方法
歯周病の影響
● 参加人数　20名
● 場所　看護学科大講堂

申込み用
二次元バーコード ▶

お問合せ先:慈恵第三健康推進センター事務局
E-mail:jikeihopcenter@jikei.ac.jp

慈恵ガジュまる教室
「骨密度!ジョーブな骨の作り方」
~毎日コツコツと~

● 日時　2024年3月23日(土)
14:00~15:00
※詳細は後日案内予定

お問合せ先:慈恵第三健康推進センター事務局
E-mail:jikeihopcenter@jikei.ac.jp

東京慈恵会医科大学

地域連携看護学実践研究センター
(JANPセンター)主催
●みんなの保健室

● 日時　2024年3月15日(金)
13:30~15:30
● 場所　多摩川住宅みんなの部屋
調布市染地3-1-816　A6

・ご自身の健康のこと、ご家族の体調のこと、子育てのこと、介護のことなどお気軽にお話しにいらして下さい。

・簡単な健康チェックができます。
(血圧、体組織測定、血中酸素飽和度、簡単認知症チェックなど)

【申し込み不要・参加費無料】
詳細は下記HPでご確認下さい。
「慈恵医大janp」で検索していただくか、下記QRコードからアクセスしてください。

JANPセンターHP ▶

お問合せ先:看護学科 学事課
TEL：03-3430-8686(自動オペレーター)内線2103
E-mail：janp@jikei.ac.jp

寄付のお願い

平素より本学に対してご支援、ご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

2020年度から続いた新型コロナウイルス感染症は5類に分類され収束しつつある状況ですが、本学ではポストコロナの新しい環境において教育、研究、医療の各現場の一人一人が奮闘し、社会に貢献しています。

現在、第三病院の建替えが着工され、工事も順調に進捗しています。地域からの期待も大きく、地域医療のニーズに適切にこたえられる病院を目指しています。

少子化、働き方改革、物価上昇など社会や情勢の変化は大きくかつ速く、医療を取り巻く環境は引続き厳しい状況ですが、本学は今後も教育、研究、医療の充実を一層図っていき社会に貢献していくための様々な取組みを行い、挑戦して参ります。そのためにはこれからも多くの資金が必要となります。引続き自助努力も重ねて参りますが、資金の調達にも限りがあります。

皆様には、引続きご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長　**栗原 敏**

〔お知らせ〕
一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナーズボードに掲載させていただきます。また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱いとなります。

寄付者名簿

・2023年6月1日～2023年10月31日の寄付者

● 企業等

医療法人社団實理会
東京国際大堀病院
院長 大堀理

医療法人立川メディカルセンター
理事長 吉井新平

株式会社ハヤオホールディングス

社会福祉法人 埼玉慈恵会
埼玉慈恵病院
理事長 西田由華

日本中央競馬会
理事長 吉田正義

● 同窓生

髙塚洋二
柴田正純
村田守昭
村松弘康
横井健太郎
株式会社メディカル・コンシェルジュ
代表取締役　磯野晴崇

● 同窓会支部会・クラス会

昭和47年卒業生一同
昭和48年卒業生一同

● 父兄

飯塚光子
中村俊規

● 保護者会

東京慈恵会医科大学医学科
保護者会　会長古谷徹

● 一般個人

石塚雄一
大橋純子
大鷲清人
金惠景
小滝秀明
佐治信忠
佐藤由太
志村　実
立川誠二
田邊直子・浩樹
富里昌弘
戸谷克昌
長井薫
野口淑子
花沢絵梨
丸山幸子
村上博
山本聡
和田藤子

※クラウドファンディングによるご寄付は除いています。

ガバナンス

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

（目的）
第1条　慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

（基本理念）
第2条　東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

（法令の遵守）
第3条　本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

（人間の尊重）
第4条　全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

（取引業者との関係）
第5条　取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

（反社会的勢力との関係）
第6条　社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

（過剰な接待接受の禁止）
第7条　正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

（環境保護）
第8条　資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

（公私の区別）
第9条　公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

（日常の業務処理）
第10条　業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。
2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

（虚偽の報告・隠蔽）
第11条　学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

（教育・指導）
第12条　各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

（告発）
第13条　教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口に提案することができる。
2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

（監査・報告）
第14条　監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

（違反の処理）
第15条　教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附　則　1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

JIKEI VIDEOS
学校法人慈恵大学ビデオ

専門医紹介動画のご紹介

慈恵大学では、患者さんにとってプラスになる医療関連の情報をお届けできるよう、
動画による情報発信も積極的に行っております。
今回ご紹介する専門医紹介動画以外にも、「NHKみんなの健康教室（本院）」や
公開講座などの動画も配信しておりますので、ぜひご覧ください。

JIKEI VIDEOSは
こちらをご覧ください

泌尿器科

＃001
働き盛りの前立腺がん治療

～復職後を考えた最適治療の提案～

泌尿器科
木村 高弘 診療部長

前立腺がんかな？まさか･･･
中高年の働き盛りで、前立腺がんと診断されたら仕事はどうしたらいいのか･･･
治療後いつから復帰できるのか･･･
とても心配ですね。
木村高弘診療部長は、患者さんともしっかり向きあい、治療後の社会復帰に向けたタイミングや、患者さんのライフスタイルなども考慮し、相談のうえで治療法を決めています。

＃002
前立腺肥大症 薬の量が減らせる低侵襲手術

～前立腺肥大症の新しい手術法UroLift（ウロリフト）～

泌尿器科
古田 昭 診療医長

前立腺肥大症は50歳代から増え、70歳代では5人に1人が罹患しているといわれています。この動画では、2022年から保険適用になった体への負担が少ない手術「UroLift」をご紹介しています。

小児科

＃003
先天代謝異常症の新生児マススクリーニング

～早期発見・早期治療：失わずに済む命を救う～

小児科
大石 公彦 診療部長

先天代謝異常症は先天的な特定の酵素が欠損してしまうために起こる疾患群です。現在では、多くの先天代謝異常症の疾患が、新生児マススクリーニングによって早期に発見することが可能になりました。大石診療部長は、アメリカで長期に渡り先天代謝異常症の研究と治療の実績を積んできたこの病気の専門医です。お気軽にご相談いただけます。

＃004
小児てんかん 多彩な発症原因と治療法

～慈恵医大の小児科では、数多くのてんかんの子供の検査や治療にあたっています～

小児科
日暮 憲道 診療医員

てんかんは、脳の一時的な異常興奮によって起こる「てんかん発作」を長年にわたって繰り返す可能性のある脳の慢性疾患です。小児期は第一の発症ピークであり、その種類や原因も多彩で、専門医による判断が欠かせない疾患です。

なお、JIKEI VIDEOSで配信中の動画は、
学校法人慈恵大学公認
広報課 YouTubeチャンネルでもご覧になれます。

広報課 YouTube
チャンネルは
こちらをご覧ください

医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、
地域の先生方との密なる医療連携を目指します。
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。

附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター　医療連携室

〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
TEL　03-5400-1202(直通)
FAX　03-5401-1879(直通)

葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL　03-3603-2111(代表)内線5145
FAX　03-3690-7474(直通)

第三病院

総合医療支援センター　医療連携室

〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1
TEL　03-3480-1151(代表)内線3804、3830
FAX　03-3430-3611(直通)

柏病院

患者支援センター　医療連携室

〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1
TEL　04-7164-1111(代表)内線2158
FAX　04-7164-1197(直通)

The JIKEI
VOL. 41
2024/Winter

［表紙の人］

吉村 道博
Michihiro Yoshimura
東京慈恵会医科大学
内科学講座（循環器内科） 講座担当教授

私はこれまでに4つの大学にお世話になりました。学生時代は宮崎医科大学で過ごし、卒業後は熊本大学循環器内科へ入局しました。内科一般の勉強のため関連施設を回り、大学院では心房性（A型）および脳性（B型）ナトリウム利尿ペプチド（ANP・BNP）の研究をして学位を頂きました。その後、冠攣縮の遺伝的要因の研究をするようにと恩師の泰江弘文先生に命じられ、血管内皮型一酸化酵（eNOS）の遺伝子多型を探索して、それが冠攣縮と関連していることを発表しました。実はこの一連のANP・BNPと冠攣縮の研究は熊本大学と京都大学との共同研究です。熊大の泰江教授が京大の第二内科（内分泌学）のご出身だったこともあって、当時、中尾一和教授が主宰されていた京大の教室にて研究をさせて頂きました。熊本と京都を夜行バスで何度も行ったり来たりして、本当に良き思い出です。今でも当時の京大の多くの先生方とは懇意にして頂いております。2007年に慈恵医大に参りまして、さらに様々な出会いが増えました。宮崎、熊本、京都、慈恵の4つの大学での人の繋がりは私の宝であり、異なる専門性の交わりが医師および研究者としてとても大事であることを学びました。

経歴
1986年　宮崎医科大学卒業
1993年　熊本大学大学院修了
2007年より現職

専門医
総合内科専門医、循環器専門医、老年病専門医

主な所属学会
日本心血管内分泌代謝学会（CVEM）（理事長）、日本心不全学会（理事、第27回学術集会会長）、国際心臓研究学会（ISHR）日本部会（理事）、日本病態生理学会（理事）、日本心臓病学会（FJCC、代議員、顧問）、日本循環器学会（FJCS、代議員、元監事）、日本内科学会（指導医、関東支部評議員）、日本老年医学会（指導医、代議員）、日本心脈管作動物質学会（評議員）、日本腫瘍循環器学会（評議員）、日本ホルモンステーション（評議員）など

受賞歴
1）第4回日本心臓財団ゼリア新薬工業　分子循環器研究助成（1996）
2）日本心臓財団研究奨励賞（1996）
3）第26回成人病医学研究助成（1997）
4）第62回日本循環器学会学術集会 Young Investigator's Award 最優秀賞（1998）
5）岡本研究奨励賞（1998）
6）高峰譲吉研究奨励賞　日本心血管内分泌代謝学会（2003）
7）武田科学振興財団　医学系研究奨励（2004）
8）井村臨床研究奨励賞（2004）
9）熊本医学会奨励賞（2007）
10）高峰譲吉賞 日本心血管内分泌代謝学会（2022）

研究領域
・心不全の病態生理と治療に関する研究：ナトリウム利尿ペプチド系とRAA系を中心に
・冠攣縮の病態生理と治療に関する研究：遺伝的および臨床的背景の検討
・循環器疾患における臓器連関研究
・数理統計学を用いた医学研究の試み

東京慈恵会医科大学 内科学講座（循環器内科）
https://www.jikei.ac.jp/academic/course/42_zyunkanki.html

編集後記

本学の臨床検査医学講座では臨床検査機器を開発する島津製作所と共同で、健診受診者のデータを用いた疫学調査を行い、その結果、健常者の98%がビタミンD不足であることを明らかにしました。

今回の特集では本学におけるビタミンDの研究にスポットを当て、ビタミンDサプリで特定の遺伝子を持つがん患者さんの再発・死亡リスクを減少させることができるという研究結果などについても紹介しています。

学祖 高木兼寛は「脚気と栄養」の研究によって「ビタミンの父」と呼ばれるほどの高い評価を国内外から受けています。本学のビタミンDに関する研究はこうしたDNAを受け継いだものでもあり、本学の研究チームによってもたらされた様々な研究成果は、社会から高い関心を集めています。本学では今後とも医療業界の貢献に向けて研究成果の情報発信を積極的に行っていきます。是非、ご注目ください。

本誌では本学に関係する皆さんと価値観と方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

法人広報委員会委員長　浅野 晃司

発　行　学校法人　慈恵大学
発行人　理事長　栗原　敏
連絡先　〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
　　学校法人　慈恵大学　広報課
ＴＥＬ　03-3433-1111（大代表）
ＦＡＸ　03-5400-1281
e-mail　koho@jikei.ac.jp
号　数　第41号
発行日　2024年2月1日

http://www.jikei.ac.jp/